

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------|--|------|----|------------|----|
| 国語 II (Japanese II) | 小林雄大 (常勤)・吉原美響 (非常勤) | 2 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 教材として定評のある標準的な作品を、論理的文章・文学的文章・古典などからバランスよく採り上げ、読解力・表現力・思考力を高める。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 登場人物の心情や場面の状況を理解して小説を読み味わうことができる。 2. 文章の構成や語句の意味を理解して評論の論旨を把握し、批評することができる。 3. 古典作品を読み味わい、言語文化に対する関心をもつことができる。 4. 論理構成を意識して文章を書くことができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | 本講義の目的、授業の進め方、評価方法などについての説明 「国語」を学ぶということについて考える | 2 | | | |
| 評論の読解 1 | 評論(「科学的「発見」とは」「メディアの変容」など)を語句や表現に注意しながら通読してその内容を理解する。 構成・論理展開を意識して読み、筆者の主張を読み取る。 主題に対する自分の思考を深める。 筆者の考え方と自分の考え方を比較し、意見をまとめる。 | 8 | | | |
| 小説の読解と鑑賞 1 | 小説(『山月記』など)を読解し、作品世界を味わう。 語句や表現に注意して通読し作品の構成や展開をつかむ。 場面や登場人物の描写に注意し読みを深める。 作品の背景を理解するとともに、作品の世界を鑑賞する。 | 8 | | | |
| 古文の読解と鑑賞 1 | 『伊勢物語』『源氏物語』などを読解し、古典文化の世界を味わう。 必要に応じて現代語訳を行いながら文章を読解する。 文化や慣習などを理解し、当時の人々の生活状況や思いなどを考える。 | 8 | | | |
| 表現 | 文章を読んで考えたことを論理的にまとめる。 | 4 | | | |
| 小説の読解と鑑賞 2 | 小説(『こころ』など)を読解し、人のあり方を考えたり心情の機微を感じ取ったりする。 語句や表現に注意して通読し作品の構成や展開をつかむ。 場面や登場人物の描写に注意し読みを深める。 | 10 | | | |
| 古文の読解と鑑賞 2 | 『更級日記』『徒然草』などの読解・鑑賞を通して、古典文化への理解を深める。 必要に応じて現代語訳を行いながら文章を読解し、表現を味わう。 時代との関わりを理解し、人間の生き方や情感などを考察する。 | 8 | | | |
| 評論の読解 2 | 評論(「リスク」と「リスク社会」「消費されるスポーツ」など)を語句や表現に注意しながら通読して大意をつかみ、内容を理解する。 テーマに関する自分の思考を深める。 文章の構成と論理の展開から筆者の見解を読み取る。 要旨のまとめ方を理解し、身につける。 | 8 | | | |
| 表現 | 現代の諸課題について理解を深め自分の意見を発信する。 | 4 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 前期・後期末考査の得点 60 %、小テスト・課題 30 %、受講態度 10 % の比重で評価して算出する。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「精選古典探求 古文編」(東京書籍)・「精選論理国語」(東京書籍)・「文学国語」(東京書籍) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------|---|--|-------------------------------------|---------------------------------------|-----------|----|
| 国語 II (Japanese II) | 小林雄大 (常勤)・吉原美響 (非常勤) | | 2 | 2 | 通年 2時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 登場人物の心情や場面の状況を理解して小説を読み味わうことができる。 | | | | | |
| | 小説の世界を理解し、場面や登場人物の心情の変化に注意しながら読み味わうことができる。 | 小説の内容を理解し、場面の状況や登場人物の心情に着目しながら読み味わうことができる。 | 小説のあらすじを理解し、場面や登場人物に関心をもって読むことができる。 | 小説のあらすじや場面、登場人物について理解できない。 | | |
| 2 | 文章の構成や語句の意味を理解して評論の論旨を把握し、批評することができる。 | | | | | |
| | 評論文に書かれた内容を、文章の構成や語句の意味に注意しながら読み解き、論旨を的確に把握し批評することができる。 | 評論文に書かれた内容を、文章の構成に着目しながら論旨を把握し、自分の考えをもつことができる。 | 評論文に書かれた内容に関心をもって読み、論旨を把握することができる。 | 評論の論旨を把握することができない。 | | |
| 3 | 古典作品を読み味わい、言語文化に対する関心をもつことができる。 | | | | | |
| | 古典作品を、その時代や文化的背景に着目しながら読みを深め、言語文化に対する関心を高めることができる。 | 古典作品を、その時代や文化的背景に着目して読み味わい、言語文化に興味をもつことができる。 | 古典作品を、その時代背景に関心をもって読み味わうことができる。 | 古典を読むための基礎的な事項に則して、古典作品を読み味わうことができない。 | | |
| 4 | 論理構成を意識して文章を書くことができる。 | | | | | |
| | 課題について、論理構成を工夫して文章を書くことができる。 | 課題について、論理構成に注意して文章を書くことができる。 | 課題について、論理構成に関心をもって文章を書くことができる。 | 課題について論理構成を意識して文章を書くことができない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-------------------------------------|--|------|----|------------|----|
| 地理歴史 II (Geography & History II) | 原田洋一郎 (常勤)・大平早紀 (非常勤) | 2 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 人々がどのように社会を形成したか、相互の交流、問題解決がどのような手段で行われたか、技術の発達に伴って人々の生活がどのように変容したか、といった点に注目して、近代を中心とする時期の歴史について学び、考えることを通じて、現代の世界をを理解し、問題を解決する力と姿勢を身に着ける。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 諸資料から歴史に関するさまざまな情報を読み取り、客観的な解釈に基づいて自分の考えをまとめ、その結果を適切に表現することができる。 2. 近現代に関する基本的な歴史的事象の因果関係や意義を理解し、現代の社会における課題に結びつけて考察することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | C (人間性・社会性) 総合的実践の技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 導入 | 歴史の見方・考え方・基礎的知識を知る。目的・評価方法などを確認する。 | 2 | | | |
| 1. 西欧世界の拡大と日本 | 以下の諸項目についての知識を獲得し、解釈し、自分の意見を表現する。 ・環シナ海交易の展開 ・産業革命と社会の変化 ・世界市場の形成と日本の開国 | 12 | | | |
| まとめと演習 1 | | 2 | | | |
| 2. 国民国家の成立と日本の近代化 | 以下の諸項目についての知識を獲得し、解釈し、自分の意見を表現する。 ・市民革命と近代民主主義社会の成立 ・国民統合とナショナリズム ・明治維新期の日本と世界 ・日本の近代国家への移行と憲法の制定 ・帝国主義と日清・日露戦争 | 14 | | | |
| まとめと演習 2 | | 2 | | | |
| 3. 国際秩序の変化と日本 | 以下の諸項目についての知識を獲得し、解釈し、自分の意見を表現する。 ・第一次世界大戦と社会主義革命 ・ヴェルサイユ体制と国際秩序の再編 ・大衆の政治参加と新たな文化 ・世界恐慌から第二次世界大戦へ | 12 | | | |
| まとめと演習 3 | | 2 | | | |
| 4. 第二次世界大戦後の世界 | 以下の諸項目についての知識を獲得し、解釈し、自分の意見を表現する。 ・国際連合の成立と東西冷戦 ・戦後の日本とアジア諸国との関係 ・日本の高度経済成長 ・冷戦の終結とその後の世界 | 12 | | | |
| まとめと演習 4 | | 2 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 各期の期末試験の成績 (50 %)、各期の中間試験前後の授業内で実施する到達度確認試験の成績 (20 %)、授業時の提出物等の内容 (30 %) によって評価する。 | | | | |
| 関連科目 | 地理歴史 I・公民 I | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「わたしたちの歴史 日本から世界へ (検定教科書)」 (山川出版社) | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-------------------------------------|--|---------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-----------|----|
| 地理歴史 II (Geography & History II) | 原田洋一郎 (常勤)・大平早紀 (非常勤) | | 2 | 2 | 通年 2時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 諸資料から歴史に関するさまざまな情報を読み取り、客観的な解釈に基づいて自分の考えをまとめ、その結果を適切に表現することができる。 | | | | | |
| | 諸資料から歴史に関する情報を的確に読み取り、客観的な解釈に基づいて自分の考えをまとめ、その結果を適切に表現することができる。 | 諸資料から歴史に関する情報を的確に読み取り、客観的に解釈することができる。 | 諸資料から歴史に関する情報の一部を読み取ることができる。 | 諸資料から歴史に関する情報を適切に読み取ることができない。 | | |
| 2 | 近現代に関する基本的な歴史的事象の因果関係や意義を理解し、現代の社会における課題に結びつけて考察することができる。 | | | | | |
| | 基本的な歴史的事象の因果関係や意義を的確に理解し、それに基づいて現代の社会における課題に結びつけて考察することができる。 | 基本的な歴史的事象の因果関係や意義を的確に理解することができる。 | 基本的な歴史的事象の因果関係や意義を部分的には理解できる。 | 基本的な歴史的事象の因果関係、意義を十分に理解できない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------|---|------|----|------------|----|
| 公民 I (Civics I) | 和田倫明 (非常勤) | 2 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 学生が公民的資質の育成のための倫理的分野について理解し、思考を深めることを目的とする。特に、生命倫理や科学技術倫理の基礎の理解、現代社会において倫理的判断が求められる問題解決能力を身につけることを目的とする。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 科学・技術倫理や生命倫理について、具体的なケースを通じて興味・関心を持ち、自ら考えたり、意見を出し合ったりできる。 2. 青年期の心理、文化や宗教について、具体的なケースを通じて興味・関心を持ち、自ら考えたり、意見を出し合ったりできる。 3. 代表的な倫理思想を学び、公共空間としての現代の日本と社会が直面する諸課題を、それらを活用して考えることができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| はじめに | 「公共的な空間に生きる」ということについて理解する。 | 2 | | | |
| 生命倫理 | 時事的な問題を取り入れながら、公共の倫理の導入として、生命倫理の現在と今後の在り方について考察することができる。 | 8 | | | |
| 科学・技術の倫理 | 時事的な問題を取り入れながら、科学・技術分野での倫理的課題の所在と取り組みの状況を理解し、今後の在り方について、特に技術者としてのかかわりを意識しながら考察することができる | 12 | | | |
| 青年期の心理 | 青年期の心理について理解し、社会への参画と自分のキャリアについて考察するときに参照することができる。 | 6 | | | |
| 公共空間と人間 | 個人と社会との関係についての倫理思想を理解し、現代の世界観や人生観に及ぼした影響を考察することができる | 8 | | | |
| 現代の世界と宗教 | 宗教とは何か、および主な世界宗教について理解を深め、その影響や意味を考察することができる。 | 6 | | | |
| 様々な倫理思想 | 公共空間に生きるための倫理として、源流思想、功利主義・徳倫理学・義務論などについて理解し、現代社会の諸問題に適用して考えることができる。 | 10 | | | |
| 人間としての在り方生き方の探求 | 様々な倫理思想について理解を深め、考察することができる。 | 8 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 定期試験を4回実施する。授業点として課題および授業ノートを提出する。授業点となる課題とは、視聴覚教材やプリント教材について、要点や意見感想を述べるものである。定期試験と授業点との比率は7:3とする。なお遠隔授業等で定期試験の実施になじまない場合には、その期間の提出課題の評価をもって定期試験の得点に替える。 | | | | |
| 関連科目 | 地理歴史Ⅰ・公民Ⅱ・歴史学Ⅰ・経済学・倫理学・心理学 | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「公共」 間宮陽介ほか (東京書籍) | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------|---|--|---|--|----|------------|----|
| 公民 I (Civics I) | 和田倫明 (非常勤) | | | 2 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | | |
| 1 | 科学・技術倫理や生命倫理について、具体的なケースを通じて興味・関心を持ち、自ら考えたり、意見を出し合ったりできる。 | | | | | | |
| | 科学・技術倫理や生命倫理について、自分で調べた資料をもとに考察し、自分の意見を発表できる。 | 科学・技術倫理や生命倫理について、与えられた資料を読解したり、レポートを作成したりできる。 | 科学・技術倫理や生命倫理について、与えられた資料をもとに、質問に答えることができる。 | 科学・技術倫理や生命倫理について、興味・関心を持たない。 | | | |
| 2 | 青年期の心理、文化や宗教について、具体的なケースを通じて興味・関心を持ち、自ら考えたり、意見を出し合ったりできる。 | | | | | | |
| | 青年期の心理、文化や宗教について、自分で調べた資料をもとに考察し、自分の意見を発表できる。 | 青年期の心理、文化や宗教について、与えられた資料を読解したり、レポートを作成したりできる。 | 青年期の心理、文化や宗教について、与えられた資料をもとに、質問に答えることができる。 | 青年期の心理、文化や宗教について、興味・関心を持たない。 | | | |
| 3 | 代表的な倫理思想を学び、公共空間としての現代の日本と社会が直面する諸課題を、それらを活用して考えることができる。 | | | | | | |
| | 公共空間としての現代の日本と社会が直面する諸課題について、自分で調べ、倫理的な視点から考察を加え、発表したり討論したりできる。 | 公共空間としての現代の日本と社会が直面する諸課題について、与えられた資料をもとに倫理的視点から考察することができる。 | 公共空間としての現代の日本と社会が直面する諸課題について、与えられた資料をもとに質問に答えることができる。 | 公共空間としての現代の日本と社会が直面する諸課題について、興味・関心を持たない。 | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------|--|-------|----|-----------|----|
| 微分積分 (Calculus) | 村井宗二郎 (常勤)・斎藤純一 (常勤)・藤川卓也 (非常勤) | 2 | 4 | 通年 4時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 1 変数の関数に対する微分法及び積分法を学ぶ。微分法・積分法は数学だけでなく工学においても最も重要な基礎理論の1つである。前期は微分を、後期は積分を扱う。演習問題を解くことを通して、基本概念を理解するとともに、計算力を身につけ、微分・積分を活用する力をつける。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 極限の概念を理解し、極限の計算ができる。 2. 微分概念を理解し、微分の計算ができる。 3. 微分の計算を応用して与えられたグラフの接線・法線、曲線の概形、最大値・最小値などを求めることができる。 4. 定積分・不定積分の概念を理解し、積分の計算ができる。 5. 定積分を用いて与えられた図形の面積や回転体の体積を求めることができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 数列とその和 | 数列の概念を理解し、その一般項や和を求めることができる。 | 12 | | | |
| 関数の極限 | 関数の収束・発散の概念を理解し、関数の極限を求めることができる。 | 6 | | | |
| 導関数 | 導関数の概念を理解し、与えられた関数の導関数が求められる。 | 22 | | | |
| 微分の応用 | 微分法を利用して、接線・法線を求めることができる。関数の増加や減少の状態を調べ、最大値・最小値を求めたり関数のグラフの概形を描くことができる。 | 20 | | | |
| 不定積分・定積分 | 不定積分、定積分の概念を理解し、基本的な不定積分、定積分の計算ができる。 | 20 | | | |
| 積分の計算 | 置換積分、部分積分を利用して様々な定積分、不定積分の計算ができる。 | 20 | | | |
| 積分の応用 | 積分を利用して、図形の面積、曲線の長さ、立体の体積などを求めることができる。 | 20 | | | |
| | | 計 120 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 4回の定期試験の得点(80%)と課題等の取り組み状況(20%)により評価する。 | | | | |
| 関連科目 | 基礎数学Ⅰ・基礎数学Ⅱ・微分積分演習・解析学基礎 | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書:「新 微分積分Ⅰ改訂版」高遠節夫他(大日本図書), 補助教材:「新 微分積分Ⅰ問題集 改訂版」高遠節夫他(大日本図書) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------|---|---|---|--|-----------|----|
| 微分積分 (Calculus) | 村井宗二郎 (常勤)・斎藤純一 (常勤)・藤川卓也 (非常勤) | | 2 | 4 | 通年 4時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 極限の概念を理解し、極限の計算ができる。 | | | | | |
| | 極限の概念を十分に理解し、複雑な極限の計算ができる。 | 極限の概念を理解し、やや複雑な極限の計算ができる。 | 極限の概念を十分に理解しているとはいえないが、簡単な極限の計算はできる。 | 極限の概念は理解できないが、簡単な極限の計算はできる。 | | |
| 2 | 微分の概念を理解し、微分の計算ができる。 | | | | | |
| | 微分を十分に理解し、複雑な微分の計算ができる。 | 微分を理解し、積、商、合成関数の基本的な微分の計算ができる。 | 微分を十分に理解しているとはいえないが、基本的な関数の微分の計算はできる。 | 微分は理解できないが、簡単な微分の計算はできる。 | | |
| 3 | 微分の計算を応用して与えられたグラフの接線・法線、曲線の概形、最大値・最小値などを求めることができる。 | | | | | |
| | 微分法を用いて、与えられたグラフの接線・法線、曲線の概形、最大値・最小値などの応用的な問題を解くことができる。 | 微分法を用いて、与えられたグラフの接線・法線、曲線の概形、最大値・最小値などの基本的な問題を解くことができる。 | 微分法を用いて、与えられたグラフの接線・法線、曲線の概形、最大値・最小値などの極めて簡単な問題を解くことができる。 | 微分法を用いて、与えられたグラフの接線・法線、曲線の概形、最大値・最小値などの問題を解くことができない。 | | |
| 4 | 定積分・不定積分の概念を理解し、積分の計算ができる。 | | | | | |
| | 置換積分法や部分積分法を用いて、複雑な定積分・不定積分の計算ができる。 | 置換積分法や部分積分法を用いて、基本的な定積分・不定積分の計算ができる。 | 簡単な定積分・不定積分の計算ができる。 | 極めて簡単な定積分・不定積分の計算を時に間違える。 | | |
| 5 | 定積分を用いて与えられた図形の面積や回転体の体積を求めることができる。 | | | | | |
| | 応用的な問題について、定積分を用いて面積、曲線の長さなどを求めることができる。 | 基本的な問題について、定積分を用いて面積、曲線の長さなどを求めることができる。 | 簡単な問題について、定積分を用いて面積、曲線の長さなどを求めることができる。 | 定積分を用いて面積、曲線の長さなどを求めることができない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------------|--|------|----|------------|----|
| 線形代数 I (Linear Algebra I) | 斎藤純一 (常勤)・宮田洋一郎 (非常勤) | 2 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 工学の専門科目を学ぶ上で必要不可欠な数学の知識・技能のうち、「ベクトル」と「行列」について学ぶ。まず、楕円など 2 次曲線の基本的な性質を学ぶ。その後、ベクトルの概念とその基本的な演算とその性質を学習し、行列の概念、その演算と 1 次方程式への応用を学ぶ。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 2 次曲線の性質を理解し、不等式の表す領域を図示できる。 2. ベクトルや行列の演算が理解できる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 2 次曲線 | 楕円などの基本的性質を理解し、グラフを描くことができるとともに、円と直線の交点や円の接線を求めることができる。 | 10 | | | |
| 平面のベクトル | 平面のベクトルの概念を理解し、和、差、定数倍、内積の計算ができる。 | 16 | | | |
| 線形独立と線形従属 | ベクトルの線形独立と線形従属の概念を理解し、与えられたベクトルの組が線形独立か線形従属かを判定できる。 | 4 | | | |
| 空間のベクトル | 空間のベクトルの概念を理解し、和、差、定数倍、内積の計算ができる。 | 7 | | | |
| 直線、平面、球の方程式 | ベクトルを用いて直線、平面、球の方程式を求め、これらを活用して図形の問題を処理することができる。 | 8 | | | |
| 行列の演算 | 行列の概念を理解し、和、差、定数倍が計算できる。 | 4 | | | |
| 行列の積 | 行列の積の性質を理解し、積の計算ができる。 | 6 | | | |
| 転置行列と逆行列 | 転置行列、逆行列の意味を理解し、与えられた 2 次正方行列の逆行列が求められる。 | 5 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 4 回の定期試験の得点 (80%) と課題等の取り組み状況 (20%) により評価する。 | | | | |
| 関連科目 | 基礎数学 I・基礎数学 II・線形代数 II | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「新 線形代数改訂版」高遠節夫他 (大日本図書), 補助教材: 「新 線形代数 問題集 改訂版」高遠節夫他 (大日本図書) | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|------------------------------|------------|----|
| 線形代数 I (Linear Algebra I) | 斎藤純一 (常勤)・宮田洋一郎 (非常勤) | | 2 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 2次曲線の性質を理解し、不等式の表す領域を図示できる。 | | | | | |
| | 二次曲線に関わる応用問題を解くことができる。 | 二次曲線の方程式と図形を描くことができる。 | 二次曲線の方程式と図形の概形を理解できる。 | 二次曲線の方程式や図形が理解できない。 | | |
| 2 | ベクトルや行列の演算が理解できる。 | | | | | |
| | ベクトルの概念を理解し、内積などに関する諸定理を理解できる。 | ベクトルの概念を理解し、内積などに関する計算ができる。 | ベクトルの概念を理解し、内積などに関する基礎的な計算ができる。 | ベクトルの概念を理解し、内積などに関する計算ができない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------------|---|------|----|------------|----|
| 物理 II (Physics II) | 吉田健一 (常勤) | 2 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 前期は波動分野の学習に取り組む。後期は波動分野に加え、物体の運動、斜面の運動といった内容についても学ぶ。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | あり | | | | |
| 到達目標 | 1. 円運動、単振動、波動、力学現象について、定性的に理解できる。 2. 円運動、単振動、波動、力学現象について、定量的に理解できる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 概念テストおよびガイダンス | 概念テストおよびガイダンスを実施する。 | 2 | | | |
| 慣性力 | 慣性力について学ぶ。 | 2 | | | |
| 円運動 | 円運動について学ぶ。 | 4 | | | |
| 単振動 | 単振動について学ぶ。 | 4 | | | |
| 問題演習 | 慣性力、円運動、単振動に関する問題演習に取り組む。 | 4 | | | |
| 波について | 波動の基本原理について学ぶ。 | 4 | | | |
| 波の速度と変位 | 波の速度と変位について学ぶ。 | 2 | | | |
| 波の種類と地震 | 波の種類 (縦波・横波) と地震波について学ぶ。 | 4 | | | |
| 横波の性質 | 横波の性質について学ぶ。 | 2 | | | |
| 横波の屈折と反射 | 横波の屈折と反射について学ぶ。 | 2 | | | |
| 問題演習 | 波動に関する問題演習に取り組む。 | 4 | | | |
| 音と開管・閉管 | 音と開管・閉管について学ぶ。 | 4 | | | |
| 音の三要素 | 音の三要素について学ぶ。 | 2 | | | |
| ドップラー効果 | ドップラー効果と衝撃波について学ぶ。 | 2 | | | |
| 問題演習 | 音波に関する問題演習に取り組む。 | 4 | | | |
| 物体の運動 | 微分積分を用いた物体の運動について学ぶ。 | 2 | | | |
| 仕事と自由落下 | 微分積分を用いたバネによる仕事と、自由落下について学ぶ。 | 2 | | | |
| 斜面の運動 | エネルギー保存則と斜面の運動に関する、課題演習に取り組む。 | 2 | | | |
| 力学分野復習 | 力学分野について復習する。 | 2 | | | |
| 波動分野復習 | 波動分野について復習する | 2 | | | |
| 概念テスト | 概念テストを実施する。 | 2 | | | |
| 問題演習 | 力学に関する問題演習に取り組む。 | 2 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 定期試験 4 回 400 点 (36%)、課題テスト 4 回 400 点 (36%)、概念テスト 2 回 200 点 (18%)、授業中のクリッカーの年間正解率 1 回 100 点 (10%) の各点数を合計し、その総得点 1100 点を 100 点換算したものを学業評価とする。 | | | | |
| 関連科目 | 物理 I | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「動画で学ぶ物理 波動・力学編」 吉田健一 (デザインエッグ社), 副読本: 「高専の物理 第 5 版」和達 三樹監修、小暮 陽三編集 (森北出版)・「高専の物理問題集 第 3 版」田中 富士男編著、大多喜 重明、岡田 克彦、大古殿 秀穂、工藤 康紀 著 (森北出版), その他: フリーテキスト | | | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------------|--|--|--|---|------------|----|
| 物理 II (Physics II) | 吉田健一 (常勤) | | 2 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 円運動、単振動、波動、力学現象について、定性的に理解できる。 | | | | | |
| | 円運動、単振動、波動、力学現象に関する基礎概念を 80 % 以上理解し、応用問題を解くことができる。 | 円運動、単振動、波動、力学現象に関する基礎概念を 70 % 以上理解し、基礎問題を解くことができる。 | 円運動、単振動、波動、力学現象に関する基礎概念を 60 % 以上理解できる。 | 円運動、単振動、波動現象、力学象に関する基礎概念の理解度が 60 % 以下である。 | | |
| 2 | 円運動、単振動、波動、力学現象について、定量的に理解できる。 | | | | | |
| | 円運動、単振動、波動、力学現象を定量的に 80 % 以上理解し、応用的な計算問題を解くことができる。 | 円運動、単振動、波動、力学現象を定量的に 70 % 以上理解し、基礎的な計算問題を解くことができる。 | 円運動、単振動、波動、力学現象を定量的に 60 % 以上理解し、基礎的な計算問題を解くことができる。 | 円運動、単振動、波動、力学現象を定量的な理解度が 60 % 以下で、基礎的な計算問題を解くことができない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-------------------------|---|----|----|------------|------|
| 化学 II (Chemistry II) | 高橋龍也 (常勤)・豊島雅幸 (常勤) | 2 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 各工学コースの専門科目を学ぶために必要な化学の基礎学力を養わせる。特に基礎的な化学現象である酸・塩基反応や酸化還元反応などの原理を学ぶ。また、基本的な有機化学や高分子化合物についてもその基礎や身近なものを通じて理解を深める。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 反応におけるエンタルピーの変化ならびに化学平衡を理解することができる。 2. 酸・塩基反応や酸化還元反応についての知識を深めることができる。 3. 有機化学や高分子化合物について基本的な命名法や構造について理解を深めることができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | | 2 | | | |
| 化学反応とエンタルピー変化、ヘスの法則 | 化学変化におけるエンタルピー変化を正しく理解し、ヘスの法則に用いることができる。 | 6 | | | |
| 化学平衡 | 平衡状態について正しく理解し、平衡定数やル・シャトリエの法則による反応進行を求めることができる。 | 2 | | | |
| 結合エネルギー | 物質の構造を正しく理解し、反応におけるエンタルピー変化を用いて未知の結合エネルギーを算出することができる。 | 2 | | | |
| 演習 | 化学反応とエンタルピー変化、ヘスの法則、化学平衡、結合エネルギーに関する演習を行い、該当分野を正しく理解できる。 | 4 | | | |
| 酸と塩基 | 酸と塩基についてその定義を理解し、pH を算出することができる。 | 4 | | | |
| 実験①食酢中の酸の定量 | 中和反応の原理を通じて食酢中の酢酸の定量を行う | 4 | | | |
| 中和反応 | 酸・塩基の性質を理解し、中和反応を正しく表記し未知の溶液の濃度を算出することができる。 | 4 | | | |
| 演習 | 酸・塩基、中和反応に関する演習を行う | 2 | | | |
| 酸化還元 | 酸化・還元を学び、酸化数を正しく理解するとともに、酸化還元反応式を正しく導きだすことができる。 | 4 | | | |
| 電池と電気分解 | 酸化還元反応で生じる電子の物質量を正しく理解し、電池における各極の変化や電気分解における両極で生じる化学変化、時間における発生量を正しく導き出すことができる。 | 4 | | | |
| 実験②希硫酸の電気分解 | 希硫酸の電気分解の実験を通して電気分解の原理を理解する | 4 | | | |
| 演習 | 酸化還元反応、電池、電気分解に関する演習を行い、該当分野を正しく理解できる。 | 2 | | | |
| 有機化学 (命名法等) | 有機化学の基礎を通じて、炭化水素の命名法や構造式を正しく表記することができる。 | 6 | | | |
| 官能基およびその反応 | 有機化合物を官能基を中心に系統的に学び、酸化反応、脱水縮合反応、付加反応、置換反応における官能基の変化を正しく表記することができる。 | 4 | | | |
| 有機化学 (芳香族) | 芳香族化合物を系統的に理解し、構造式を正しく表記することができる。 | 4 | | | |
| 演習 | 有機化学に関する演習を行い、該当分野を正しく理解できる。 | 2 | | | |
| | | | | | 計 60 |

| | |
|------------------|--|
| <p>学業成績の評価方法</p> | <p>定期試験：50%，計算課題：10%，実験報告書：20%，取組状況：20%の比率で評価する。定期試験（前期中間：化学反応とエンタルピー変化，ヘスの法則，化学平衡，結合エネルギー、前期期末：酸・塩基，中和反応、後期中間：酸化・還元，電池，電気分解、後期期末：有機化学）計算課題（前期：酸・塩基，中和反応（提出期限：前期期末試験1週間前）、後期：酸化・還元，電池，電気分解（提出期限：後期中間試験1週間前））実験レポート（前期：中和滴定（提出期限：前期終業式）、後期：電気分解（提出期限：12月授業最終日））</p> |
| <p>関連科目</p> | |
| <p>教科書・副読本</p> | <p>副読本：「サイエンスビューー 化学総合資料」実教出版編修部（実教出版）</p> |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-------------------------|--|---|--|------------------------------|-----------|----|
| 化学 II (Chemistry II) | 高橋龍也 (常勤)・豊島雅幸 (常勤) | | 2 | 2 | 通年 2時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 反応におけるエンタルピーの変化ならびに化学平衡を理解することができる。 | | | | | |
| | 分子構造を理解し、熱化学方程式から原子間の結合エネルギーを導くことができる。 | 反応における物質の変換を正しく理解し化学平衡の問題を解くことができる。 | ヘスの法則を理解し、各反応による熱量を正しく求めることができる。 | 化学反応式を書くことができず、熱量変化を理解していない。 | | |
| 2 | 酸・塩基反応や酸化還元反応についての知識を深めることができる。 | | | | | |
| | 中和滴定反応における手順を理解し、指示薬の正しい選択ができる。また、電気分解における発生物質を正しく理解し電解液、電極板を正しく選択できる。 | 溶液の pH を導くことができる。またイオン化傾向を正しく理解し電池の構成を理解することができる。 | 中和の反応式を書くことができる。また、化学反応式からその反応が酸化か還元かを判断できる。 | 酸、塩基、酸化、還元の見分けが正しく説明できない | | |
| 3 | 有機化学や高分子化合物について基本的な命名法や構造について理解を深めることができる。 | | | | | |
| | 官能基を理解し有機化学反応を正しく導くことができる。 | ベンゼン環を中心とする芳香族および官能基の配位による位置異性体を理解できる。 | 炭化水素の飽和、不飽和および立体構造を正しく理解する。 | 炭化水素を正しく理解できない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|----|----|------------|----|
| 保健体育 II (Health & Physical Education II) | 坂本宗司 (常勤) | 2 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 個人・集団スポーツの合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、体力を高め、公正・協力・責任・参画・共生する意欲・態度を主体的に身につける。 | | | | |
| 授業の形態 | 実験・実習 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 主体的に授業へ取り組むことができる。 2. 公正に取り組む、お互いに協力する、自己の責任を果たす、一人一人の違いを大切にできる態度を身につけることができる。 3. ベースボール型、バレーボール、バスケットボール、サッカーの基本技術を身につけ、体力を高めることができる。 4. ルールやマナーを守りながら、自ら安全に留意して行動することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |

| 講義の内容 | | |
|-------------|---|------|
| 項目 | 目標 | 時間 |
| ガイダンス | 学習の進め方、評価の仕方が理解できる | 2 |
| 基礎体力作り | 走り込みや筋力トレーニングを実施し基礎体力を高めることができる | 4 |
| 体力テスト | 新体力テストを実施し、各自の体力が把握できる | 4 |
| ベースボール型スポーツ | ガイダンスを通し、授業実施方法および施設や用具の安全な使用方法について理解できる 基本技術を身につけゲームの中での戦術を理解し、応用技術を用い仲間と協働してゲームを楽しむことができる 基本技術（スローイング、キャッチボール、バッティング） 応用技術（ノック、トスバッティング、フィールディング、技能テスト、戦術とゲーム） | 10 |
| バレーボール | ガイダンスを通し、授業実施方法および施設や用具の安全な使用方法について理解できる 基本技術を身につけゲームの中での戦術を理解し、応用技術を用い仲間と協働してゲームを楽しむことができる 基本技術（対人でのオーバーハンドパス・アンダーハンドパス、サービスとレシーブ） 応用技術（トスからのスパイクとブロック、技能テスト、戦術とゲーム） | 8 |
| フラッグフットボール | ガイダンスを通し種目の歴史や特性を理解し、施設や用具の安全な使用方法について理解できる 基本技術を身につけゲームの中での戦術を理解し、応用技術を用い仲間と協働してゲームを楽しむことができる 基本技術（パス、キャッチ） 応用技術（ランニングプレイの練習、ディフェンス練習、戦術とゲーム） | 8 |
| サッカー | ガイダンスを通し、授業実施方法および施設や用具の安全な使用方法について理解できる 基本技術を身につけゲームの中での戦術を理解し、応用技術を用い仲間と協働してゲームを楽しむことができる 基本技術（ボール慣れ・パスとドリブル、リフティング） 応用技術（パスワーク、ドリブルワーク、パスワーク、インステップシュート、3vs1のとりかご、4vs2のとりかご、技能テスト、戦術とゲーム） | 10 |
| 陸上 | 長距離走で自身の体力を高めることができる | 4 |
| バスケットボール | ガイダンスを通し、授業実施方法および施設や用具の安全な使用方法について理解できる 基本技術を身につけゲームの中での戦術を理解し、応用技術を用い仲間と協働してゲームを楽しむことができる 基本技術（ボール慣れとパスワーク、ランニングショット、ドリブルショット） 応用技術（トライアングルパス、スクウエアパス、2メン速攻、技能テスト、戦術とゲーム） | 10 |
| | | 計 60 |
| 学業成績の評価方法 | ①授業への取組み 60%、②学習意欲と学習態度 30%、③技術・技能・習熟度 10%とする。 | |
| 関連科目 | 保健体育 I | |
| 教科書・副読本 | 教科書:「現代高等保健体育 改訂版」衛藤隆、友添秀則ほか(大修館書店)、副読本:「図説 現代高等保健 令和7年度版」大修館書店編集部(大修館書店)・「ステップアップ高校スポーツ 2025」高橋健夫ほか(大修館書店) | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|---|--|---|-----------|----|
| 保健体育 II (Health & Physical Education II) | 坂本宗司 (常勤) | | 2 | 2 | 通年 2時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 主体的に授業へ取り組むことができる。 | | | | | |
| | すべての授業で主体的に取り組んでいる。 | 主体的に授業へ取り組んでいる。 | 基準内であるが、授業への取り組みが良くない。 | 基準を超えており、授業への取り組みが悪い。 | | |
| 2 | 公正に取り組む、お互いに協力する、自己の責任を果たす、一人一人の違いを大切にできる。 | | | | | |
| | 自ら仲間と、公正に取り組む、協力し、責任を果たし、一人一人の違いを大切にすることができる。 | 仲間と、公正に取り組む、協力し、責任を果たし、一人一人の違いを大切にすることができる。 | 教師の指示に従って仲間と、公正に取り組む、協力し、責任を果たし、一人一人の違いを大切にすることができる。 | 仲間と、公正に取り組む、協力し、責任を果たし、一人一人の違いを大切にできない。 | | |
| 3 | ベースボール型、バレーボール、バスケットボール、サッカーの基本技術を身につけ、体力を高めることができる。 | | | | | |
| | 基本技術を発展させた技能を身につけゲームに活かし、体力を高めることができる。 | 運動の基本技術を身につけ、体力を高めることができる。 | 教員の指示に従って、運動の基本技術を身につけ、体力を高めることができる。 | 運動の基本技術を身につけ、体力を高めることができない。 | | |
| 4 | ルールやマナーを守りながら、自ら安全に留意して行動することができる。 | | | | | |
| | ルールやマナーを守りながら、自己及び仲間の安全に留意して行動することができる。 | ルールやマナーを守りながら、自己の安全に留意して行動することができる。 | 教員の指示に従って、ルールやマナーを守りながら、自己の安全に留意して行動することができる。 | ルールやマナーを守りながら、自己の安全に留意して行動することができない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|-------|----|-----------|----|
| 英語 II (English II) | 藤吉大介 (常勤)・スウィニー久美子 (非常勤) | 2 | 4 | 通年 4時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 日常的な話題、国際的な話題など、様々なテーマを扱った基礎的な英文を題材に用いて、読む・書く・聞き・話すことの言語運用能力を総合的に伸ばす。英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 基礎的・基本的な語彙・構文・文法を理解できる。 2. 英語で読んだり聞いたりして、情報や考えを理解できる。 3. 英語で書いたり話したりして、情報や考えなどを理解できる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| Lesson 1 What is Attractive in Okinawa? | ・「沖縄で魅力的なのは何か」についての英文を読解できる。 現在分詞、過去分詞を伴う第2文型について理解できる。 ・「日本人は何を食べてきたのか」についての英文を読解できる。 節を伴う第4文型について理解できる。 | 30 | | | |
| Lesson 2 What have the Japanese People Been Eating? | | 30 | | | |
| Lesson 3 High School Students' Volunteer Activities | ・「高校生のボランティア活動」についての英文を読解できる。 現在完了形、現在完了進行形、過去完了形、過去完了進行形、未来進行形について理解できる。 | 30 | | | |
| Lesson 4 Happy Time in Finland | ・「フィンランドの幸福な時間」についての英文を読解できる。 不定詞、形式主語 it、形式目的語 it について理解できる。 | 30 | | | |
| Lesson 6 Artificial Intelligence | ・「人工知能」についての英文を読解できる。 SVOC、使役動詞、知覚動詞、help+O+ 動詞の原形について理解できる。 | 30 | | | |
| Lesson 7 Bando Is My Second Hometown | ・「板東は私の第二の故郷」についての英文を読解できる。 様々な比較表現、完了不定詞、S seem to ~について理解できる。 | 30 | | | |
| Lesson 9 Green Land Plan | ・「グリーンランド計画」についての英文を読解できる。 関係代名詞、関係代名詞 (非制限用法)、関係副詞、関係副詞 (非制限用法) について理解できる。 | 30 | | | |
| Lesson 10 The Mystery of Colors | ・「色の不思議」についての英文を読解できる。 仮定法過去、仮定法過去完了、if を用いない仮定法、no matter + 疑問詞、複合関係詞について理解できる。 | 計 120 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 定期試験7割、平常点3割 (小テスト、提出物、その他) から評価する。状況に応じて再試験を行う場合がある。 | | | | |
| 関連科目 | 基礎英語演習 II | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「APPLAUSE English Communication II」 (開隆堂), 副読本: 「Listening Pilot Level 2.5 改定版」 (東京書籍)・「Word Navi 英単語・熟語 3000」 (啓林館), 参考書: 「Seed 総合英語 (四訂新版)」 (文英堂) | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|------------------------------|------------|----|
| 英語 II (English II) | 藤吉大介 (常勤)・スウィニー久美子 (非常勤) | | 2 | 4 | 通年 4 時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 基礎的・基本的な語彙・構文・文法を理解できる。 | | | | | |
| | 基礎的・基本的な語彙・構文・文法を正確に理解できる。 | 基礎的・基本的な語彙・構文・文法を正確に理解できる。 | 基礎的・基本的な語彙・構文・文法を半分以上理解できる。 | 基礎的・基本的な語彙・構文・文法を理解できない。 | | |
| 2 | 英語で読んだり聞いたりして、情報や考えを理解できる。 | | | | | |
| | 英語で読んだり聞いたりして、情報や考えを正確に理解できる。 | 英語で読んだり聞いたりして、情報や考えをおおむね理解できる。 | 英語で読んだり聞いたりして、情報や考えを半分以上理解できる。 | 英語で読んだり聞いたりしても、情報や考えを理解できない。 | | |
| 3 | 英語で書いたり話したりして、情報や考えなどを理解できる。 | | | | | |
| | 英語で書いたり話したりして、情報や考えを正確に理解できる。 | 英語で書いたり話したりして、情報や考えをおおむね理解できる。 | 英語で書いたり話したりして、情報や考えを半分以上理解できる。 | 英語で書いたり話したりしても、情報や考えを理解できない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------------------------|--|------|----|------------|----|
| 微分積分演習 (Exercises in Calculus) | 瀧澤駿 (非常勤) | 2 | 1 | 後期 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 学生が、「微分積分」の学習内容の理解を補う。演習問題を解くことを通じて、関数の微分法・積分法の概念を理解し、基本的な計算力を身につけるとともに、微分法・積分法を活用する能力を養う。 | | | | |
| 授業の形態 | 演習 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 微分法の基本的な公式を活用して、与えられた関数の導関数が求められる。 2. 微分法を活用して、与えられた関数の増加や減少の状態を調査することができ、それに基づいてグラフの概形が描ける。 3. 微分法を活用して、与えられた関数の極値や最大値・最小値が求められる。 4. 積分法の基本公式や部分積分法、置換積分法を活用して、与えられた関数の不定積分や定積分が計算できる。 5. 積分法を活用して、与えられた図形の面積や立体の体積を求めることができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 微分の計算 | 導関数を求める基本公式を理解し、与えられた関数の導関数を求めることができる。 | 8 | | | |
| 微分の応用 | 微分法を応用して、与えられた関数の増加や減少の状態を調査することができ、グラフを描くことができる。また、関数の極値や最大値・最小値を求めることができる。 | 6 | | | |
| 積分の計算 | 不定積分を求める基本公式や部分積分法、置換積分法を活用して、与えられた関数の不定積分や定積分を求めることができる。 | 10 | | | |
| 積分の応用 | 積分法を応用して、与えられた図形の面積や立体の体積を求めることができる。 | 6 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 毎回の授業中に行う演習課題の取り組み状況 (50%) および試験 (50%) により評価する。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「新 微分積分 I 改訂版」高遠節夫他 (大日本図書), 補助教材: 「新 微分積分 I 問題集 改訂版」高遠節夫他 (大日本図書) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------------------------|--|---|---|--|----|-----------|----|
| 微分積分演習 (Exercises in Calculus) | 瀧澤駿 (非常勤) | | | 2 | 1 | 後期 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | | |
| 1 | 微分法の基本的な公式を活用して、与えられた関数の導関数が求められる。 | | | | | | |
| | 微分法の基本的な公式を活用して、複雑な関数の導関数が求められる。 | 微分法の基本的な公式を活用して、やや複雑な関数の導関数が求められる。 | 微分法の基本的な公式を十分に活用しているとは言えないが、簡単な関数の導関数は求められる。 | 微分法の基本的な公式を活用できず、簡単な関数の導関数を求められない。 | | | |
| 2 | 微分法を活用して、与えられた関数の増加や減少の状態を調査することができ、それに基づいてグラフの概形が描ける。 | | | | | | |
| | 微分法を活用して、関数の増加や減少、グラフの概形に関する応用問題を解くことができる。 | 微分法を活用して、関数の増加や減少、グラフの概形に関する基本問題を解くことができる。 | 微分法を活用して、関数の増加や減少、グラフの概形に関する極めて簡単な問題を解くことができる。 | 微分法を用いて、関数の増加や減少、グラフの概形に関する問題を解くことができない。 | | | |
| 3 | 微分法を活用して、与えられた関数の極値や最大値・最小値が求められる。 | | | | | | |
| | 微分法を活用して、関数の極値や最大値・最小値に関する応用問題を解くことができる。 | 微分法を活用して、関数の極値や最大値・最小値に関する基本問題を解くことができる。 | 微分法を活用して、関数の極値や最大値・最小値に関する極めて簡単な問題を解くことができる。 | 微分法を用いて、関数の極値や最大値・最小値に関する問題を解くことができない。 | | | |
| 4 | 積分法の基本公式や部分積分法、置換積分法を活用して、与えられた関数の不定積分や定積分が計算できる。 | | | | | | |
| | 積分法の基本公式や部分積分法、置換積分法を活用して、複雑な関数の不定積分や定積分が計算できる。 | 積分法の基本公式や部分積分法、置換積分法を活用して、やや複雑な関数の不定積分や定積分が計算できる。 | 積分法の基本公式や部分積分法、置換積分法を十分に活用しているとは言えないが、簡単な関数の不定積分や定積分が計算できる。 | 積分法の基本公式や部分積分法、置換積分法を活用できず、関数の不定積分や定積分が計算できない。 | | | |
| 5 | 積分法を活用して、与えられた図形の面積や立体の体積を求めることができる。 | | | | | | |
| | 積分法を活用して、図形の面積や立体の体積に関する応用問題を解くことができる。 | 積分法を活用して、図形の面積や立体の体積に関する基本問題を解くことができる。 | 積分法を活用して、図形の面積や立体の体積に関する極めて簡単な問題を解くことができる。 | 積分法を用いて、図形の面積や立体の体積に関する問題を解くことができない。 | | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|------|----|------------|----|
| 基礎英語演習 II (Practice of Basic English II) | 乾展子 (常勤/実務)・武藤美咲 (非常勤) | 2 | 1 | 前期 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 演習問題形式の教材を用いて主に高校レベルの基礎英文法の復習を行い、高等専門学校英語の基礎力を伸長させる。 | | | | |
| 授業の形態 | 演習 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 文法の基本を系統的に復習し、英語の基礎力・標準レベルを身につけることができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | あり | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 第 1・2 章 | 文の成り立ち・文の種類・疑問詞、文型と動詞、動詞の語法を理解できる | 2 | | | |
| 第 3 章 | 時制・完了形を理解できる。 | 2 | | | |
| 第 4 章 | 助動詞を理解できる | 2 | | | |
| 第 5 章 | 受動態を理解できる。 | 2 | | | |
| 小テスト・第 6 章 | 第 1 章～第 5 章の復習テスト。準動詞を理解できる。 | 2 | | | |
| 第 7 章 | 関係詞を理解できる。 | 2 | | | |
| 第 8 章 | 比較を理解できる。 | 2 | | | |
| 第 9 章 | 仮定法を理解できる。 | 2 | | | |
| 第 10 章 | 否定を理解できる | 2 | | | |
| 小テスト・第 11 章 | 第 6 章～第 10 章の復習テスト。特殊構文を理解できる。 | 2 | | | |
| 第 13 章 | 接続詞を理解できる。 | 2 | | | |
| 第 14 章 | 前置詞・群動詞を理解できる。 | 2 | | | |
| 第 15・16 章 | 名詞・冠詞・代名詞・形容詞・副詞を理解できる。 | 2 | | | |
| 小テスト・まとめ | 第 11 章、第 13 章～第 16 章の復習テストとまとめ。 | 2 | | | |
| 総復習・まとめ | これまでの学習内容を理解できる。 | 2 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 小テスト 8 割 + 平常点 2 割 (提出物、その他) から総合的に評価する。 | | | | |
| 関連科目 | 英語 II | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「Vision Quest Quick Review 16 文法演習 16 日完成」啓林館 (いっずな書店), 副読本: 「Seed 総合英語 (四訂新版)」 (文英堂) | | | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|---|---|----------------------------|------------------------------|------------|----|
| 基礎英語演習 II (Practice of Basic English II) | 乾展子 (常勤/実務)・武藤美咲 (非常勤) | | 2 | 1 | 前期 2 時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 文法の基本を系統的に復習し、英語の基礎力・標準レベルを身につけることができる。 | | | | | |
| | 参考書や辞書を活用し、基本文法の使い方を正確に理解し、説明できる。 | 教員のサポートだけでなく、参考書や辞書を活用し、基本英文法の使い方を正確に理解し、説明できる。 | 教員のサポートを頼りに基本文法の使い方を理解できる。 | 教員のサポートがあっても基本文法の使い方を理解できない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|--|------|----|------|----|
| データサイエンス概論 (Introduction of Data Science) | 山本昇志 (常勤/実務) | 2 | 1 | 集中 | 選択 |
| 授業の概要 | 学生は、Society 5.0 の実現に向けて必要とされるデータ活用の基礎的な考え方を理解し、データを収集・整理・分析するための基本的な知識と技能を身につける。本科目は、情報リテラシーおよびプログラミング基礎と連動したデータサイエンス教育プログラムの入門科目として位置づけられ、リテラシーレベルに相当するデータサイエンスの基礎的能力を養うことを目的とする。講義を通じて、データサイエンスに必要な統計・確率などの数学的基礎事項を学び、データ分析の基本的な手法を理解する。これにより、学生は今後の専門科目や実社会においてデータを活用するための基盤を形成する。なお、本科目は2年次に進級した学生のうち、データサイエンス概論を未修得の学生を対象とする。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 学生は、データ・AI が社会にもたらす変化や、AI を活用したビジネスおよびサービスの事例を説明し、数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義を整理して説明することができる。 2. 学生は、基礎的な統計および確率の知識を用いてデータを読み取り、分析結果を数値や図表を用いて説明することができる。 3. 学生は、一般に公開されているデータを用いて簡単な分析を行い、その結果をレポートとしてまとめて報告することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | あり | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践の技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| データサイエンスの活用 | 学生は、Society 5.0 および AI の発展を踏まえ、データサイエンスが活用されている分野や活用可能な分野を具体例を挙げて説明することができる (オンデマンド学習)。 | 2 | | | |
| データを扱う上での倫理 | 学生は、データおよび AI の利活用において重要となる ELSI (倫理的・法的・社会的課題) を説明するとともに、具体的な事例を基に、実際の活動において遵守すべき事項を判断し、適切な行動をとることができる (オンデマンド学習)。 | 4 | | | |
| データの特徴を知る (統計) | 学生は、データに対する基礎的な統計処理を用いてデータの特徴を把握し、得られた統計量や図表を基に、データから示唆される指針を説明することができる (オンデマンド学習)。 | 4 | | | |
| データの頻度を知る (確率) | 学生は、各種データの発生頻度を確率の概念を用いて表現し、確率分布や代表的な指標を基に、データの特徴を説明することができる (オンデマンド学習)。 | 6 | | | |
| データを処理する | 学生は、収集された実データに対して前処理 (データクレンジング) の目的と方法を説明し、適切なソフトウェアを用いてデータの前処理を実施することができる (オンデマンド学習)。 | 4 | | | |
| データを分析する | 学生は、前処理後のデータを読み込み、統計および確率の手法を用いて、ソフトウェアによりデータ分析を実施し、分析結果を説明することができる (オンデマンド学習)。 | 4 | | | |
| データを可視化する | 学生は、前処理後のデータを読み込み、適切なソフトウェアを用いてデータを可視化し、図表からデータの特徴や傾向を説明することができる (オンデマンド学習)。 | 4 | | | |
| まとめ | 学生は、データサイエンスにおけるリテラシーレベルの知識および技能を総合的に用いて、データの収集・処理・分析・可視化の一連の流れを説明し、基礎的なデータ活用を行うことができる。 | 2 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 定期試験とレポート (80%)、また適宜実施する課題 (20%) の結果を総合的に評価する。 | | | | |
| 関連科目 | 情報リテラシー・プログラミング基礎 | | | | |
| 教科書・副読本 | 副読本: 「データサイエンス実践テキスト」山本昇志, 下川原英理, 齋藤純一, 真志取秀人 (森北出版), その他: 2年次用に改定した資料を配布する。内容は副読本に従っている | | | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|--|---|---|---|------|----|
| データサイエンス概論 (Introduction of Data Science) | 山本昇志 (常勤/実務) | | 2 | 1 | 集中 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 学生は、データ・AI が社会にもたらす変化や、AI を活用したビジネスおよびサービスの事例を説明し、数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義を整理して説明することができる。 | データ・AI が社会にもたらす変化や AI 活用事例を説明でき、数理・データサイエンス・AI を学ぶ意義を概ね説明できる。 | 教員の助言を得て、データ・AI が社会に与える影響や学習の意義を簡単に説明できる。 | データ・AI が社会に与える影響や学習の意義を説明できない。 | | |
| 2 | 学生は、基礎的な統計および確率の知識を用いてデータを読み取り、分析結果を数値や図表を用いて説明することができる。 | 基礎的な統計・確率の知識を用いてデータを読み取り、分析結果を数値や簡単な図表で説明できる。 | 教員の助言を得て、基礎的な統計量を用いたデータの読み取りや簡単な説明ができる。 | 統計・確率の基礎を用いてデータを読み取ったり、分析結果を説明したりすることができない。 | | |
| 3 | 学生は、一般に公開されているデータを用いて簡単な分析を行い、その結果をレポートとしてまとめて報告することができる。 | 公開データを用いて簡単な分析を行い、結果をレポートとしてまとめて報告できる。 | 教員の助言を得て、公開データを用いた基本的な分析を行い、簡単なレポートとしてまとめることができる。 | 公開データを用いた分析や、結果のレポート作成ができない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------------|--|------|----|-----------|----|
| 国語 III (Japanese III) | 河野光将 (常勤)・小林俊輝 (非常勤) | 3 | 2 | 通年 2時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 様々なジャンルの優れた文章や古典などの読解や鑑賞を通して、人間の心情やあり方を理解し思考する姿勢を養う。また、言語文化・日本文化に対する関心・理解を深める。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 登場人物の心情や場面の状況を理解して小説を読み味わい、作品世界を通して、人間の心情のあり方や行為の意味を考察することができる。 2. 文章の構成や語句の意味を理解して評論の論旨を把握し、論点に対して自分の考えをもつことができる。 3. 古典を読み味わい、伝統的な言語文化について特質や背景を理解することができる。 4. 自分の考えたことや感じたことを、論理構成を明確にして文章に書くことができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 評論の読解 1 | 評論(「人類による環境への影響」など)を語句や表現に注意しながら通読してその内容を理解し、文章の構成と論理の展開から筆者の考え方やものの見方を読み取る。 | 8 | | | |
| 小説の読解と鑑賞 1 | 小説(「月火水木金土日」など)を読み味わい、人間のあり方に対する思考を深める。語句や表現、場面や登場人物の描写に注意し読みを深める。作品の背景を理解するとともに、作品の世界を鑑賞する。 | 10 | | | |
| 表現 | 小説を読んで考えたことを文章にする。 | 4 | | | |
| 古文の読解と鑑賞 | 古文の読み、現代語訳をおこないながら古典文化への理解を深める。あわせて作品の時代背景・成立事情・全体像などについて考察する。 | 8 | | | |
| 評論の読解 2 | 評論(「学びとは何か」など)を語句や表現に注意しながら通読してその内容を理解し、筆者の考え方やものの見方を読み取る。教材の内容について理解を深め自分の意見をもつ。 | 8 | | | |
| 小説の読解と鑑賞 2 | 小説(「山椒魚」など)を読み味わい、人間のあり方に対する思考を深める。語句や表現、場面や登場人物の描写に注意し読みを深める。作品の背景を理解するとともに、作品の世界を鑑賞する。 | 10 | | | |
| 表現 | 小説を読んで考えたことを文章にする。 | 4 | | | |
| 日本の文化にふれる | 伝統的な日本の文化にふれて、作品世界の特質や背景を考察する。 | 8 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 前期・後期末考査の得点、小テスト・課題、授業中の学習意欲をそれぞれ 60%、30%、10%の比重で評価して算出する。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書:「新 文学国語」(三省堂)・「新 論理国語」(三省堂), その他: 昨年度国語Ⅱで購入した教科書を使うので、今年度は購入しない。 | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------------|---|---|--|--|-----------|----|
| 国語 III (Japanese III) | 河野光将 (常勤)・小林俊輝 (非常勤) | | 3 | 2 | 通年 2時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 登場人物の心情や場面の状況を理解して小説を読み味わい、作品世界を通して、人間の心情のあり方や行為の意味を考察することができる。 | | | | | |
| | 小説の世界を読み味わい、作品世界を通して、人間の心情のあり方や行為の意味について考察を深めることができる。 | 小説の世界を読み味わい、作品世界を通して、人間の心情のあり方や行為の意味について考察することができる。 | 小説の世界を読み味わい、作品世界を通して、人間の心情のあり方や行為の意味について興味をもつことができる。 | 小説の世界を読み味わうことができず、作品世界を通して、人間の心情のあり方や行為の意味を考察できない。 | | |
| 2 | 文章の構成や語句の意味を理解して評論の論旨を把握し、論点に対して自分の考えをもつことができる。 | | | | | |
| | 文章の構成や語句の意味を理解して評論の論旨を正確に把握し、論点に対する自分の考えを明確にもつことができる。 | 文章の構成や語句の意味を理解して評論の論旨を把握し、論点に対する自分の考えをもつことができる。 | 文章の構成や語句の意味を理解して評論の論旨を把握し、論点に対して自分なりに考えようとするところまで把握することができる。 | 評論の論旨を把握することができず、論点に対して自分の考えをもつことができない。 | | |
| 3 | 古典を読み味わい、伝統的な言語文化について特質や背景を理解することができる。 | | | | | |
| | 古典を読み味わい、伝統的な言語文化についてその特質や背景への理解を深めることができる。 | 古典を読み味わい、伝統的な言語文化についてその特質や背景を理解することができる。 | 古典を読み味わい、伝統的な言語文化についてその特質や背景に興味をもつことができる。 | 古典を読み味わうことができず、伝統的な言語文化についてその特質や背景に興味をもつことができない。 | | |
| 4 | 自分の考えたことや感じたことを、論理構成を明確にして文章に書くことができる。 | | | | | |
| | 自分の考えや感想を、論理構成を明確にしてわかりやすく優れた文章を書くことができる。 | 自分の考えや感想を、論理構成を明確にしてわかりやすい文章を書くことができる。 | 自分の考えや感想を、論理構成を明確にしてわかりやすい文章を書こうとすることができる。 | 自分の考えや感想を、わかりやすい文章に書くことができない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---------------------|---|------|----|-----------|----|
| 公民II (Civics II) | 田中淳 (常勤) | 3 | 2 | 通年 2時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 公民IIでは、学生が同世代の高等学校に必要な「政治・経済」の基礎知識を学習するとともに、現代社会の諸問題を考えるために、広い視野に立って民主主義の意義を理解する。「政治・経済」を公正な視点や政治的・経済的思考から考え、有権者として必要な社会の仕組みや政治・経済知識を身につける。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 学生が教科書やプリント等の政治分野の内容について、基礎的な用語や制度を書くことができる。 2. 学生が教科書やプリント等の経済分野の内容について、基礎的な用語や制度を書くことができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | 1年間の目標、授業内容・評価方法を把握する。 | 2 | | | |
| 政治の基本原理 | 政治とは何か、国家と領土とは何かを把握する。 民主政治と人権保障の歴史の意味がわかる。 議院内閣制や大統領制などの国家制度を説明できる。 | 14 | | | |
| 日本の政治について | 日本国憲法の基本原則や天皇制、憲法改正を把握する。 憲法の平和主義と、自衛隊の成立の意味がわかる。 | 6 | | | |
| 基本的人権の保障 | 日本での基本的人権の保障を把握する。法の下での平等、自由権、社会権、及び、環境権などの新しい人権の意味がわかる。 | 8 | | | |
| 国会、内閣、裁判所 | 国会、内閣、裁判所の仕組みを説明できる。 | 6 | | | |
| 地方自治 | 地方自治と地方分権がわかる。 | 2 | | | |
| 選挙制度 | 行政国家と、政党政治や選挙制度を学び、投票方法を把握する。 | 4 | | | |
| 経済を学ぶ | 経済を学ぶための後期課題を行う。 | 2 | | | |
| 経済の基本概念 | 経済とは何か、機会費用などの経済学的な考え方の意味がわかる。 | 4 | | | |
| 経済社会の成立 | アダム・スミス、ケインズ、フリードマンなどを通して資本主義経済体制の成立と変容がわかる。 マルクスの思想と社会主義経済の変容と動向の意味がわかる。 分業と交換、経済主体、生産可能性フロンティアの概念がわかる。 | 6 | | | |
| 需要と供給、市場の失敗 | 需要と供給、現代企業と寡占的市場、市場の失敗について把握する。 | 6 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 定期試験 (50%) と課題 (50%) で評価するが、再試を行う場合がある。 | | | | |
| 関連科目 | 公民I・経済学 | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「政治・経済」 杉田 敦ほか (東京書籍) | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|----------------------|--|--|---|--|------------|----|
| 公民 II (Civics II) | 田中淳 (常勤) | | 3 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 学生が教科書やプリント等の政治分野の内容について、基礎的な用語や制度を書くことができる。 | | | | | |
| | 政治分野について、教科書やプリント教材等の基礎用語と制度を理解し、自分の力で正確に書くことができる。 | 政治分野について、教科書やプリント教材等の基礎用語と制度を理解し、一定程度書くことができる。 | 政治分野について、教科書やプリント教材等の基礎用語を一部分理解しているが、教員の支援で最低限書くことができる。 | 政治分野について、教科書やプリント教材等の基礎用語を理解できず、書くことができない。 | | |
| 2 | 学生が教科書やプリント等の経済分野の内容について、基礎的な用語や制度を書くことができる。 | | | | | |
| | 経済分野について、教科書やプリント教材等の基礎用語と制度を理解し、自分の力で正確に書くことができる。 | 経済分野について、教科書やプリント教材等の基礎用語と制度を理解し、一定程度書くことができる。 | 経済分野について、教科書やプリント教材等の基礎用語を一部分理解しているが、教員の支援で最低限書くことができる。 | 経済分野について、教科書やプリント教材等の基礎用語を理解できず、書くことができない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------------------|---|------|----|------------|----|
| 線形代数 II (Linear Algebra II) | 村井宗二郎 (常勤)・藤川卓也 (非常勤)・荒木康太 (非常勤)・田口宏明 (非常勤) | 3 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 2年次の「線形代数 I」で学んだことの続きとして、「行列」「行列式」「1 次変換」「固有値」等を学ぶ。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. ガウスの消去法を用いて連立方程式を解き、逆行列を求められること。 2. 行列式の意味、性質、展開などを理解し、行列式の計算ができること。 3. 行列式の連立一次方程式や図形への応用が理解できること。 4. 線形変換の意味を理解し、その計算ができること。 5. 固有値・固有ベクトルを利用し、行列の対角化ができること。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基礎的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 消去法 | ガウスの消去法を用いて連立方程式、逆行列を求める。 | 3 | | | |
| 逆行列と連立 1 次方程式 | 逆行列を用いて連立 1 次方程式を解く。 | 3 | | | |
| 行列の階数 | 基本変形を利用して行列の階数を求める。 | 2 | | | |
| 行列式の意味 | 行列式の意味を理解する。 | 3 | | | |
| 行列式の性質 | 行列式の性質を理解し、その計算技能を習得する。 | 3 | | | |
| 行列の積の行列式 | 正方行列の積の行列式を計算する。 | 2 | | | |
| 行列式の展開 | n 次の行列式を (n-1) 次の行列式を用いて表すことを学ぶ。 | 2 | | | |
| 正則な行列の行列式 | 行列が正則であるための条件について学ぶ。 | 5 | | | |
| 連立一次方程式と行列式 | 連立一次方程式とクラメル公式について学ぶ。 | 5 | | | |
| 行列式の図形的意味 | 平行四辺形の面積や線形独立であるための条件を学習する。 | 3 | | | |
| 線形変換の意味 | 線形変換の意味を理解する。 | 4 | | | |
| 線形変換の性質 | 線形変換の基本的性質を習得する。 | 2 | | | |
| 合成変換と逆変換 | 合成変換と線形変換の逆変換について学ぶ。 | 2 | | | |
| 回転を表す線形変換 | 平面上の点の回転移動について学習する。 | 2 | | | |
| 直交変換 | 直交行列によって表される線形変換を習得する。 | 2 | | | |
| 固有値と固有ベクトル | 固有値・固有ベクトルの意味を理解する。 | 6 | | | |
| 行列の対角化 | 行列の対角化について学習する。 | 4 | | | |
| 対称行列の対角化 | 対称行列を直交行列によって対角化することを習得する。 | 4 | | | |
| 対角化の応用 | 2 次形式の標準形や行列の累乗への応用について学ぶ。 | 3 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 4 回の定期試験の得点と課題等の取り組み状況から評価する。なお、定期試験と課題等の比率を 4 : 1 とする。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「新 線形代数」高遠・斉藤他 (大日本図書), 副読本: 「新 線形代数問題集」高遠・斉藤他 (大日本図書) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------------------|---|---------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|----|-----------|----|
| 線形代数 II (Linear Algebra II) | 村井宗二郎 (常勤)・藤川卓也 (非常勤)・荒木康太 (非常勤)・田口宏明 (非常勤) | | | 3 | 2 | 通年 2時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | | |
| 1 | ガウスの消去法を用いて連立方程式を解き、逆行列を求められること。 | | | | | | |
| | ガウスの消去法を用いて連立方程式を解ける。 | 逆行列の計算ができる。 | 行列の基本的な計算ができる。 | 行列の基本的な演算ができない。 | | | |
| 2 | 行列式概念、性質、展開などを理解し、行列式の計算ができること。 | | | | | | |
| | 4次以上の行列式を求めることができる。 | やや複雑な三次行列式をサラスの法則を用いず求めることができる。 | 簡単な三次行列式をサラスの法則を用いず求めることができる。 | 簡単な三次行列式をサラスの法則を用いず求めることができない。 | | | |
| 3 | 行列式の連立一次方程式や図形への応用が理解できること。 | | | | | | |
| | 行列式のもつ幾何的意味や外積の幾何的意味を理解できる。 | クラメルの公式や外積を理解し、問題を解くことができる。 | クラメルの公式を用いて連立方程式を解くことができる。 | クラメルの公式を用いて連立方程式を解くことができない。 | | | |
| 4 | 線形変換の概念を理解し、その計算ができること。 | | | | | | |
| | 回転行列による変換、直交変換を理解し問題を解くことができる。 | 線形変換による像を理解し、表現行列を求めることができる。 | 線形変換の基本的意味を理解できる。 | 線形変換の基本的意味を理解できない。 | | | |
| 5 | 固有値・固有ベクトルを利用し、行列の対角化ができること。 | | | | | | |
| | 三次行列の固有値、固有ベクトルを求め、行列を対角化できる。 | 二次行列の固有値、固有ベクトルを求め、行列を対角化できる。 | 二次行列の固有値、固有ベクトルを求めることができる。 | 二次行列の固有値、固有ベクトルを求めることができない。 | | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---------------------------|---|----|----|------------|----|
| 解析学基礎 (Basic Analysis) | 村井宗二郎 (常勤)・藤川卓也 (非常勤)・荒木康太 (非常勤) | 3 | 4 | 通年 4 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 媒介変数表示された曲線の微分積分、関数の展開や 2 変数関数の微分積分を学ぶ。これにより解析できる対象が平面から空間へ (2 次元から 3 次元へ) と広がり、理学・工学に対するより実践的な応用が可能となる。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 定積分を用いて与えられた曲線の長さや回転体の体積を求めることができる 2. 媒介変数表示された曲線の長さや曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。 3. 多項式による近似の概念を理解し、関数の展開ができる。 4. 偏微分の概念を理解し、偏微分の計算ができる。 5. 偏微分を利用して、2 変数関数の極値を求めることができる。 6. 重積分の概念を理解し、重積分の計算ができる。 7. 重積分を利用して、立体の体積を求めることができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |

| 講義の内容 | | |
|-----------------|--|-------|
| 項目 | 目標 | 時間 |
| 積分の応用 | 積分を利用して、曲線の長さ、立体の体積などを求めることができる。 | 4 |
| 曲線の媒介変数表示 | 媒介変数表示された曲線の概形を描くことができる。 | 4 |
| 媒介変数表示と微分法 | 媒介変数表示された曲線の速度ベクトルや接線が求められる。 | 4 |
| 媒介変数表示と積分法 | 曲線の長さや、図形の面積を求めることができる。 | 4 |
| 極座標と極方程式 | 極方程式で与えられた曲線の概形を描くことができる。 | 4 |
| 極方程式と積分法 | 極方程式で与えられた曲線の長さや、図形の面積が求められる。 | 4 |
| 広義積分 | 広義積分の収束判定ができ、その値を求めることができる。 | 4 |
| 高次導関数 | 与えられた関数の高次導関数を求めることができる。 | 4 |
| べき級数 | べき級数の概念を理解し、その収束半径を求めることができる。 | 4 |
| テイラーの定理とテイラー展開 | 級数展開の概念を理解し、基本的な関数の展開ができる。 | 4 |
| マクローリン多項式と関数の近似 | マクローリン展開を利用して、指定された数値の近似値が求められる。 | 4 |
| 2変数関数 | 2変数関数とそのグラフの概念が理解できる。 | 4 |
| 2変数関数の極限值 | 与えられた2変数関数の極限值を求められ、連続性が調査できる。 | 4 |
| 偏導関数 | 偏微分係数、偏導関数の概念を理解し、偏導関数が求められる。 | 4 |
| 前期のまとめ | 前期の学習内容を組合せて、総合的に問題を解くことができる。 | 4 |
| 合成関数の偏導関数 | 合成関数の偏導関数を求めることができる。 | 4 |
| 接平面 | 与えられた2変数関数のグラフの接平面の方程式が求められる。 | 4 |
| 全微分と近似 | 全微分概念を理解し、全微分を求めることができる。 | 4 |
| 2変数関数の極値 | 極値の概念を理解し、その極値を与える候補点が決定できる。 | 4 |
| 極値の判定 | 極値をとるための条件を活用し、極値が決定できる。 | 4 |
| 陰関数の微分法 | 陰関数の概念を理解し、その導関数が求められる。 | 4 |
| 条件付き極値 | ラグランジュの乗数法を用いて、条件付き極値問題が解ける。 | 4 |
| 2重積分の定義 | 2重積分の概念を理解し、累次積分の値を求めることができる。 | 6 |
| 2重積分の計算 | 積分順序の変更によって、2重積分が求められる。 | 6 |
| 変数変換 | 変数変換を用いて、与えられた2重積分を計算することができる。 | 4 |
| 極座標による2重積分 | 極座標への変換を利用して、与えられた2重積分が計算できる。 | 4 |
| 立体の体積 | 2重積分を利用して、与えられた立体の体積を求めることができる。 | 4 |
| 広義積分 | 2重積分の概念を活用して1変数関数の定積分が計算できる。 | 4 |
| 後期のまとめ | 1年間の学習内容を振り返り、総合的に問題を解くことができる。 | 4 |
| | | 計 120 |
| 学業成績の評価方法 | 4回の定期試験の得点(80%)と課題や小テスト等の状況(20%)から評価する。状況によっては再試験を実施する場合がある。 | |
| 関連科目 | | |
| 教科書・副読本 | 教科書:「新微分積分II改訂版」高遠節夫他(大日本図書), 補助教材:「新微分積分II問題集改訂版」高遠節夫他(大日本図書) | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---------------------------|---|---|--|-----------------------------------|-----------|----|
| 解析学基礎 (Basic Analysis) | 村井宗二郎 (常勤)・藤川卓也 (非常勤)・荒木康太 (非常勤) | | 3 | 4 | 通年 4時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 定積分を用いて与えられた曲線の長さや回転体の体積を求めることができる | | | | | |
| | 応用的な問題について、定積分を用いて曲線の長さ、回転体の体積などを求めることができる。 | 基本的な問題について、定積分を用いて曲線の長さ、回転体の体積などを求めることができる。 | 簡単な問題について、定積分を用いて曲線の長さ、回転体の体積などを求めることができる。 | 定積分を用いて曲線の長さ、回転体の体積などを求めることができない。 | | |
| 2 | 媒介変数表示された曲線の長さや曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。 | | | | | |
| | 微分法を利用して、媒介変数表示された曲線の概形を正確に描くとともに、積分法を利用して、その長さや面積を求めることができる。 | 媒介変数表示された曲線の概形をイメージすることができ、その長さや面積が求められる。 | 曲線の長さや曲線で囲まれた図形の面積を求めるために積分法を利用することができる。 | 媒介変数表示された曲線の概形をイメージできない。 | | |
| 3 | 多項式による近似の概念を理解し、関数の展開ができる。 | | | | | |
| | 基本的な関数のマクローリン展開を組合せて、複雑な関数のマクローリン展開を求めることができる。 | 基本的な関数のマクローリン展開を利用して、指定された値の近似値を求めることができる。 | 基本的な関数のマクローリン展開を求めることができる。 | 級数展開の概念が理解できない。 | | |
| 4 | 偏微分の概念を理解し、偏微分の計算ができる。 | | | | | |
| | 複数の関数の合成によって構成された関数の偏導関数を正確に求めることができる。 | 基本的な関数の偏導関数や偏微分係数を正確に求めることができる。 | 偏導関数や偏微分係数の概念を説明することができる。 | 偏導関数や偏微分係数の概念が理解できない。 | | |
| 5 | 偏微分を利用して、2変数関数の極値を求めることができる。 | | | | | |
| | 複数の関数の合成によって構成された関数の極値や条件付き極値を正確に求めることができる。 | 初等的な2変数関数の極値を求めることができる。 | 与えられた2変数関数の極値を求める手順を説明することができる。 | 2変数関数の極値の概念が理解できない。 | | |
| 6 | 重積分の概念を理解し、重積分の計算ができる。 | | | | | |
| | 与えられた式に応じて、積分順序の変更や変数変換を適切に活用し、複雑な関数の重積分を計算することができる。 | 初等的な関数の重積分を計算することができ、変数変換や積分順序の変更ができる。 | 重積分の幾何学的な意味を説明することができる。 | 重積分の意味が理解できない。 | | |
| 7 | 重積分を利用して、立体の体積を求めることができる。 | | | | | |
| | 与えられた曲面の式から立体を想像し、重積分を立式して立体の体積を求めることができる。 | 図示された立体の体積を、重積分を利用して求めることができる。 | 立体の体積を計算するために、どのように重積分を利用するかを説明することができる。 | 立体の体積と、重積分の関係が理解できない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|---|------|----|------------|----|
| 物理 III (Physics III) 情報通信工学コース・医療福祉工 学コース | 藏本武志 (常勤) | 3 | 1 | 前期 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 各工学コースの専門科目を学ぶ際に必須となる基礎事項を学ぶ。自然現象の原理・法則の学習を通して、物理的思考力の養成をはかる。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 熱力学の第 1 法則を理解し、使い方を習得する | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを活用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 熱量 | 熱エネルギー保存の法則を理解し、使い方を習得する。 | 6 | | | |
| 気体の分子運動 | 気体の状態方程式・分子運動の速さについて理解する。 | 6 | | | |
| 演習 | | 2 | | | |
| 熱力学の法則 1 | 内部エネルギーについて理解する。 | 6 | | | |
| 熱力学の法則 2 | 熱力学の第 1 法則を理解し、使い方を習得する。 | 8 | | | |
| 演習 | | 2 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 2 回の定期試験の得点、取組状況点を総合して評価する。なお、定期試験の得点と取組状況点の比率は 65 : 35 とする。 | | | | |
| 関連科目 | 物理 I・物理 II | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「高専の物理 第 5 版」和達 三樹監修、小暮 陽三編集 (森北出版), 副読本: 「高専の物理問題集 第 3 版」田中 富士男編著、大多喜 重明、岡田 克彦、大古殿 秀穂、工藤 康紀 著 (森北出版), その他: 過年度購入済 | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|------------|----|
| 物理 III (Physics III) 情報通信工学コース・医療福祉工 学コース | 藏本武志 (常勤) | | 3 | 1 | 前期 2 時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 熱力学の第 1 法則を理解し、使い方を習得する | | | | | |
| | 熱力学の第 1 法則について、応用問題を解くことが出来る | 熱力学の第 1 法則について、標準的な問題を解くことができる | 熱力学の第 1 法則について、初歩的な問題を解くことができる | 熱力学の第 1 法則について、初歩的な問題を解くことができない | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|---|------|----|------------|----|
| 物理 III (Physics III) ロボット工学コース・航空宇宙工学コース | 藏本武志 (常勤) | 3 | 1 | 前期 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 各工学コースの専門科目を学ぶ際に必須となる基礎事項を学ぶ。自然現象の原理・法則の学習を通して、物理的思考力の養成をはかる。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 静電気と電流について基本的な性質を理解できる | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 静電気力 | 摩擦電気、帯電、導体と不導体、静電誘導、誘電分極、クーロンの法則を理解する。 | 4 | | | |
| 電界とその性質 | 電界、電気力線、ガウスの法則を理解する。 | 4 | | | |
| 電位差とその性質 | 電位と電位差を理解する。 | 4 | | | |
| 演習 | | 3 | | | |
| コンデンサー | コンデンサーの原理、電気容量、誘電率、コンデンサーの接続、静電エネルギーを理解する。 | 7 | | | |
| 直流電流 | 自由電子の流れと電流の関係を理解する。 | 2 | | | |
| オームの法則 | 電流、電圧、抵抗の関係を理解する。 | 2 | | | |
| 抵抗の接続 | 抵抗の直列、並列接続を理解する。 | 2 | | | |
| 演習 | | 2 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 2 回の定期試験の得点、取組状況点を総合して評価する。なお、定期試験の得点と取組状況点の比率は 65 : 35 とする。 | | | | |
| 関連科目 | 物理 I・物理 II・応用物理 I・応用物理 II | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「高専の物理 第 5 版」和達 三樹監修、小暮 陽三編集 (森北出版), 副読本: 「高専の物理問題集 第 3 版」田中 富士男編著、大多喜 重明、岡田 克彦、大古殿 秀穂、工藤 康紀 著 (森北出版), その他: 過年度購入済 | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|--------------------------|----------------------------|----------------------------|-----------------------------|-----------|----|
| 物理 III (Physics III) ロボット工学コース・航空宇宙工学コース | 藏本武志 (常勤) | | 3 | 1 | 前期 2時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 静電気と電流について基本的な性質を理解できる | | | | | |
| | 静電気と電流について、応用問題を解くことができる | 静電気と電流について、標準的な問題を解くことができる | 静電気と電流について、初歩的な問題を解くことができる | 静電気と電流について、初歩的な問題を解くことができない | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|----|----|------------|----|
| 保健体育 III (Health & Physical Education III) | 坂本宗司 (常勤)・青木拓郎 (非常勤)・藤原豊樹 (非常勤) | 3 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 個人・集団スポーツの合理的・計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性について理解し、公正・協力・責任・参画・共生する意欲・態度を主体的に身につける。 | | | | |
| 授業の形態 | 実験・実習 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 主体的に授業へ取り組むことができる。 2. 公正に取り組む、お互いに協力する、自己の責任を果たす、一人一人の違いを大切にできる態度を身につけることができる。 3. バレーボール、バスケットボール、サッカー、バドミントンの基本・応用技術を身につけ、体力を高めることができる。 4. ルールやマナーを守りながら、自ら安全に留意して行動することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |

| 講義の内容 | | |
|------------|---|------|
| 項目 | 目標 | 時間 |
| ガイダンス | 学習の進め方、評価の仕方が理解できる | 2 |
| 基礎体力作り | 走り込みや筋力トレーニングを実施し基礎体力を高めることができる | 4 |
| 体力テスト | 新体力テストを実施し、各自の体力が把握できる | 4 |
| バレーボール | ガイダンスを通し、授業実施方法および施設や用具の安全な使用方法について理解できる 基本技術を身につけゲームの中での戦術を理解し、応用技術を用いゲームを楽しむことができる 基本技術（オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの復習、サービスとサーブカット） 応用技術（トスからのスパイクとブロック、オープンスパイク、三段攻撃、技能テスト、戦術とゲーム） | 10 |
| バドミントン | ガイダンスを通し、授業実施方法および施設や用具の安全な使用方法について理解できる 基本技術を身につけゲームの中での戦術を理解し、応用技術を用い仲間と協働してゲームを楽しむことができる 基本技術（ラケットティング、フォア・バックハンド、サーブ） 応用技術（ハイクリア、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ダブルスの戦術とゲーム） | 4 |
| 卓球 | ガイダンスを通し、授業実施方法および施設や用具の安全な使用方法について理解できる 基本技術を身につけゲームの中での戦術を理解し、応用技術を仲間と協働して用いゲームを楽しむことができる 基本技術（ラケットティング、フォア・バックハンド、サーブ） 応用技術（ドライブ、カット、スマッシュ、ダブルスの戦術とゲーム） | 4 |
| フラッグフットボール | ガイダンスを通し、授業実施方法および施設や用具の安全な使用方法について理解できる 基本技術を身につけゲームの中での戦術を理解し、応用技術を用いゲームを楽しむことができる 基本技術（パス、キャッチ、ランニングプレイの練習） 応用技術（オフェンス練習、ディフェンス練習、戦術とゲーム） | 8 |
| サッカー | ガイダンスを通し、授業実施方法および施設や用具の安全な使用方法について理解できる 基本技術を身につけゲームの中での戦術を理解し、応用技術を用いゲームを楽しむことができる 基本技術（ショートパスとロングパス、トラップ・フェイントとボールコントロール） 応用技術（パス・ドリブル～シュート、センタリングシュート・コーナーキック、2対2・3対3、スモールサイドゲーム、戦術とゲーム） | 10 |
| 陸上 | 長距離走で自身の体力を高めることができる | 4 |
| バスケットボール | ガイダンスを通し、授業実施方法および施設や用具の安全な使用方法について理解できる 基本技術を身につけゲームの中での戦術を理解し、応用技術を用いゲームを楽しむことができる 基本技術（トライアングルパス、スクウエアパス、ランニングシュートとドリブルシュート、2メン速攻） 応用技術（2メンパラレル・3メンクロス、3対2のオフェンス練習、技能テスト、戦術とゲーム） | 10 |
| | | 計 60 |
| 学業成績の評価方法 | ①授業への取り組み状況60%、②学習意欲と学習態度30%、③技術・技能・習熟度10% | |
| 関連科目 | 保健体育 II | |
| 教科書・副読本 | 教科書:「現代高等保健体育 改訂版」衛藤隆、友添秀則ほか(大修館書店)、副読本:「図説 現代高等保健 令和6年度版」大修館書店編集部(大修館書店)・「ステップアップ高校スポーツ 2024」高橋健夫ほか(大修館書店) | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|---|--|---|----|------------|----|
| 保健体育 III (Health & Physical Education III) | 坂本宗司 (常勤)・青木拓郎 (非常勤)・藤原豊樹 (非常勤) | | | 3 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | | |
| 1 | 主体的に授業へ取り組むことができる。 | | | | | | |
| | すべての授業で主体的に取り組んでいる。 | 主体的に授業へ取り組んでいる。 | 基準内であるが、授業への取り組みが良くない。 | 基準を超えており、授業への取り組みが悪い。 | | | |
| 2 | 公正に取り組む、お互いに協力する、自己の責任を果たす、一人一人の違いを大切にできる。 | | | | | | |
| | 自ら仲間と、公正に取り組む、協力し、責任を果たし、一人一人の違いを大切にすることができる。 | 仲間と、公正に取り組む、協力し、責任を果たし、一人一人の違いを大切にすることができる。 | 教師の指示に従って仲間と、公正に取り組む、協力し、責任を果たし、一人一人の違いを大切にすることができる。 | 仲間と、公正に取り組む、協力し、責任を果たし、一人一人の違いを大切にできない。 | | | |
| 3 | バレーボール、バスケットボール、サッカー、バドミントンの基本・応用技術を身につけ、体力を高めることができる。 | | | | | | |
| | 基本・応用技術を発展させた技能を身につけゲームに活かし、体力を高めることができる。 | 運動の基本・応用技術を身につけ、体力を高めることができる。 | 教員の指示に従って、運動の基本・応用技術を身につけ、体力を高めることができる。 | 運動の基本・応用技術を身につけ、体力を高めることができない。 | | | |
| 4 | ルールやマナーを守りながら、自ら安全に留意して行動することができる。 | | | | | | |
| | ルールやマナーを守りながら、自己及び仲間の安全に留意して行動することができる。 | ルールやマナーを守りながら、自己の安全に留意して行動することができる。 | 教員の指示に従って、ルールやマナーを守りながら、自己の安全に留意して行動することができる。 | ルールやマナーを守りながら、自己の安全に留意して行動することができない。 | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|---|----|----|------------|-------|
| 英語 III (English III) | 永井誠 (常勤)・乾展子 (常勤/実務)・藤吉大介 (常勤)・エバンス、ガリー (非常勤)・グリフィスイアン・レナード (非常勤)・メレディス、グレアム・アラン (非常勤) | 3 | 4 | 通年 4 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 理工系の様々なテーマを扱った基礎的な英文を題材に読む・書く・聞き・話すことの言語運用能力を総合的に伸ばす。また、英語における口頭でのコミュニケーション能力の基礎を身に付ける。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 基本文法・構文・語彙を用いた英文の主旨を理解し、意味を把握することができる。 2. 英文の主旨を理解し、自分の考えを表現することができる。 3. 基本的な日常英会話を理解し、英語でコミュニケーションができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | あり | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 基礎文法 A: Science for Tomorrow: Unit 1 & 2 B: 実用英語演習問題: Unit 1 & 2 | [主語+述語] の基本構造とその組み合わせを理解できる。 A: 「Recyclable Glue that Sticks and Unsticks on Demand」「Bumble Bees Like to Play with Toys too!」の内容を理解し、語彙・文法・表現を習得できる。 B: ① 「Shopping」「Office Work」に関する問題に対処できる。② 「WH 疑問文」「名詞、形容詞」に関する問題に対処できる。 | 20 | | | |
| ネイティブ教員によるコミュニケーション活動 1 | ③リスニングとスピーキングの技能をバランスよく学び、英語による基本的なコミュニケーションを行うことができる。 | 7 | | | |
| A: Science for Tomorrow: Unit 3 & 4 B: 実用英語演習問題: Unit 3 & 4 | A: 「Lab-Grown Chicken Approved for Sale in the US」「Runaway Black Hole Leaves Behind a Trail of Stars」の内容を理解し、語彙・文法・表現を習得できる。 B: ① 「Transportation」「Travel & Eating Out」に関する問題に対処できる。② 「勧誘、提案」「副詞、述語動詞」に関する問題に対処できる。 | 25 | | | |
| ネイティブ教員によるコミュニケーション活動 2 | ③リスニングとスピーキングの技能をバランスよく学び、英語によるコミュニケーションを積極的に行うことができる。 | 8 | | | |
| A: Science for Tomorrow: Unit 5 & 6 B: 実用英語演習問題: Unit 5 & 6 | A: 「Record Number of Baby Seahorses Released」「Vaccines without Needles」の内容を理解し、語彙・文法・表現を習得できる。 B: ① 「Meetings」「Web Sites」に関する問題に対処できる。② 「依頼、許可、勧誘、提案」「動詞の態・数」に関する問題に対処できる。 | 20 | | | |
| ネイティブ教員によるコミュニケーション活動 3 | ③リスニングとスピーキングの技能をバランスよく学び、やや複雑な内容に関してコミュニケーションを取ることができる。 | 7 | | | |
| A: Science for Tomorrow: Lesson 7 B: 実用英語演習問題: Unit 7 & 8 | A: 「The Heartwarming Story Behind Nike's First Hands-Free Sneaker」の内容を理解し、語彙・文法・表現を習得できる。 B: ① 「Advertising」「Information Technology」に関する問題に対処できる。② 「申し出、場面が社内」「代名詞、関係代名詞」に関する問題に対処できる。 | 25 | | | |
| ネイティブ教員によるコミュニケーション活動 4 | ③リスニングとスピーキングの技能をバランスよく学び、高度な内容に関してコミュニケーションを取ることができる。 | 8 | | | |
| | | | | | 計 120 |

| | |
|-----------|---|
| 学業成績の評価方法 | 定期試験70%、小テスト5%、提出物・発表等の取組5%、スーパー英語課題5%、ネイティブ教員におけるコミュニケーション活動や発表20%として、総合的に評価する。必要に応じて再試験を行うこともあり得る。 |
| 関連科目 | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「Science for Tomorrow」服部圭子 他 (金星堂)・「Smart Route to the TOEIC® L & R Test」Hiromi Furusawa, Braven Smillie (CENGAGE Learning), 参考書: 「Seed 総合英語 (四訂新版)」 (文英堂) |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-------------------------|--|--|---|---|----|-----------|----|
| 英語 III (English III) | 永井誠 (常勤)・乾展子 (常勤/実務)・藤吉大介 (常勤)・エバンス、ガリー (非常勤)・グリフィスイアン・レナード (非常勤)・メレディス、グレアム・アラン (非常勤) | | | 3 | 4 | 通年 4時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | | |
| 1 | 基本文法・構文・語彙を用いた英文の主旨を理解し、意味を把握することができる。 | | | | | | |
| | 英文を読んでいく中で、基本文法・構文を理解し、分からない語彙を自ら調べ、内容を理解するとともに、理解した内容を要約し、発表することができる。 | 英文を読んでいく中で基本文法・構文を理解し、分からない語彙は自らで調べ、内容を理解することができる。 | 英文を読んでいく中で理解できない基本文法・構文もあるが、分からない語彙は自ら調べ、イラストや写真を参考にしながら、内容を理解することができる。 | 平易な英文で書かれた文を読むことができず、辞書を使ったり、イラストや写真を参考にしても、内容を理解することができない。 | | | |
| 2 | 英文の主旨を理解し、自分の考えを表現することができる。 | | | | | | |
| | 関心のある分野の話題について、つながりのある文章で具体的に説明し、自分の意見を加えて書くことができる。 | 身近な事柄について、簡単な語句や文を用いて、説明文を書くことができる。 | 例文を参考にしながら、慣れ親しんだ語句や文を書くことができる。 | 例文を参考にしても、慣れ親しんだ語句や文を書くことができない。 | | | |
| 3 | 基本的な日常英会話を理解し、英語でコミュニケーションができる。 | | | | | | |
| | 日常生活に関する身近な話題や知識のある話題について、基本的な表現を用いて情報や意見交換しながらコミュニケーションができる。 | 個人的な関心事について、基本的な英語表現を用いてコミュニケーションができる。 | ごく身近な話題であれば、単語を用いて英語でコミュニケーションができる。 | 自分に関するごく限られた情報においても、英語でコミュニケーションをとることができない。 | | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|----------------------|--|----|----|------------|----|
| 歴史学 I (History I) | 原田洋一郎 (常勤) | 3 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 人類がどのように鉱物資源を獲得し、利用してきたか、それによって人々の生活、文化や社会、ひいては地域間関係のあり方にどのような変化が生じたかについて学ぶことを通じて、技術、資源と歴史との関係についての理解を深め、自らが学ぶ技術と社会との関係について具体的に考察できるようになることを目指す。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 諸資料から金属資源の獲得、利用に関するさまざまな情報を読み取り、その結果を適切に表現することができる。 2. 資源の獲得、利用に関する基本的な歴史的事象の因果関係や意義を的確に理解し、現代の社会における課題と結びつけて考察し、その結果を適切に表現することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。 | | | | |

| 講義の内容 | | |
|--------------------|---|------|
| 項目 | 目標 | 時間 |
| 導入 | 授業の目標、授業内容、評価方法について理解する。 | 2 |
| 1. 金属資源と文明 | 以下の項目について、講義の聴講や作業を通じて理解する。 ・青銅器と古代文明 ・金属貨幣と古代文明 ・鉄とヒッタイト | 12 |
| まとめと演習 (1) | レポートの作成、または理解度確認課題を通じて、ここまでの学習成果を確認する。 | 2 |
| 2. 採鉱・冶金のルネサンス | 以下の項目について、講義の聴講や作業を通じて理解する。 ・貴金属の分離技術 ・ザクセン、コーンウォールと鉱業技術 ・都市商人と鉱山経営 ・新世界の金銀と水銀アマルガム法 | 12 |
| まとめと演習 (2) | レポートの作成、または理解度確認課題を通じて、ここまでの学習成果を確認する。 | 2 |
| 3. 採鉱・冶金の新たなフロンティア | 以下の項目について、講義の聴講や作業を通じて理解する。 ・シベリアの金 ・スカンディナヴィアの銅と鉄 ・日本の金銀 ・ゴールドラッシュ | 12 |
| まとめと演習 (3) | レポートの作成、または理解度確認課題を通じて、ここまでの学習成果を確認する。 | 2 |
| 4. 近代産業と資源 | 以下の項目について、講義の聴講や作業を通じて理解する。 ・第2次産業革命と鉱業 ・企業による独占と鉱業 ・エネルギー資源の開発 ・資源と社会 | 12 |
| まとめと演習 (4) | 以下の項目について、講義の聴講や作業を通じて理解する。 | 2 |
| 総括 | 今年度の学修を通じて得られたことを振り返る。 | 2 |
| | | 計 60 |
| 学業成績の評価方法 | 平常点（学習に関するコメントや作業の内容）の成績（30％）、項目ごとの「まとめ」（理解度確認課題またはレポート）の成績（70％）によって評価する。 | |
| 関連科目 | 地理歴史Ⅰ・地理歴史Ⅱ・公民Ⅰ・公民Ⅱ | |
| 教科書・副読本 | その他：やる気のある学生は、以下の文献を入手して参照のこと。その他の参考文献については、授業内で必要に応じて紹介する。Martin Lynch, "Mining in World History" Reaction Books Ltd, 2002. (ISBN 978-1-86189-173-0) | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|----------------------|---|---|---|---|------------|----|
| 歴史学 I (History I) | 原田洋一郎 (常勤) | | 3 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 諸資料から金属資源の獲得、利用に関するさまざまな情報を読み取り、その結果を適切に表現することができる。 | | | | | |
| | 諸資料を参照して、資源の獲得、利用に関するさまざまな情報を読み取り、その結果を適切に表現することができる。 | 諸資料を参照して、資源の獲得、利用に関するさまざまな情報を的確に読み取ることができる。 | 諸資料を参照して、資源の獲得、利用に関する情報を部分的に読み取ることができる。 | 諸資料から必要な情報を読み取ることができない。 | | |
| 2 | 資源の獲得、利用に関する基本的な歴史的事象の因果関係や意義を的確に理解し、現代の社会における課題と結びつけて考察し、その結果を適切に表現することができる。 | | | | | |
| | 資源の獲得、利用に関する歴史的事象の因果関係や意義を的確に理解し、現代の社会における課題と結びつけて考察し、その結果を適切に表現することができる。 | 資源の獲得、利用に関する歴史的事象の因果関係や意義を的確に理解することができる。 | 資源の獲得、利用に関する歴史的事象の因果関係や意義を部分的に理解することができる。 | 資源の獲得、利用に関する歴史的事象の因果関係や意義を的確に理解することができない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------|--|------|----|------------|----|
| 経済学 (Economics) | 田中淳 (常勤) | 3 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 毎日、数多くの経済に関するニュースが報道され、経済の仕組みや動きを具体的に理解することが必要となってきた。本講義では、3年次で開講している「公民Ⅱ」の内容と一部分並行しながら、学生が経済に関する基礎知識を知り、現代社会の諸問題を理解していく。3年次であることを考慮し、学生が初歩的な経済理論を学び、後半は様々な経済活動や企業活動の意味、日本経済の動向を示した教材等を理解し、社会人への準備としての経済的なセンスを身につける。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 学生は講義を聴き、個人ワークの記入や課題の問題に解答でき、課題を提出できる。 2. 学生は経済学について、プリント教材等で基礎的事項が分かり、確認試験の基礎的な問題に解答できる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | 授業内容、評価方法の説明。経済学とはどのような学問か、把握する。 | 2 | | | |
| 経済の基本問題 | 経済システムや市場の基本的な仕組みの意味がわかる。 | 8 | | | |
| 効用最大化 | 無差別曲線と予算線から効用最大化問題が解ける。 | 6 | | | |
| 中間のまとめ | これまでの復習と課題演習。 | 4 | | | |
| 消費者と生産者の行動 | 需要曲線と供給曲線の意味が理解できる。 | 6 | | | |
| 前期のまとめ | これまでの復習と確認試験。 | 2 | | | |
| 企業の経済学 | 利潤最大化問題を理解する。 | 6 | | | |
| 市場均衡 | 完全競争市場と寡占市場、独占市場における経済分析が分かる。 | 6 | | | |
| ゲーム理論 | ゲーム理論と囚人のジレンマが理解できる。 | 4 | | | |
| 国民所得の基礎概念 | 国内総生産や乗数効果が分かり、乗数を計算できる。 | 4 | | | |
| 経済政策 | IS-LM 曲線や経済政策について把握する。 | 6 | | | |
| 経済に関する諸問題 | 経済に関する諸問題の中から、いくつかの話題を選んで講義し、内容を理解する。 | 2 | | | |
| 後期のまとめ | これまでの復習と確認試験 | 4 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 確認試験 (50%) と課題演習 (50%) で評価するが、再試を行う場合がある。 | | | | |
| 関連科目 | 公民Ⅱ | | | | |
| 教科書・副読本 | 参考書: 「教養の政治学・経済学」香川勝俊編 (学術図書出版社), その他: その都度、指定する。 | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------|---|--|---|---|-----------|----|
| 経済学 (Economics) | 田中淳 (常勤) | | 3 | 2 | 通年 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 学生は講義を聴き、個人ワークの記入や課題の問題に解答でき、課題を提出できる。 | | | | | |
| | 経済に関する講義を聴き、個人ワークや課題用紙の問題を自分の力で正確に書くことができる。 | 経済に関する講義を聴き、個人ワークや課題用紙の問題を一定程度書くことができる。 | 経済に関する講義を聴き、個人ワークや課題用紙の問題を教員の支援を加えて最低限書くことができる。 | 経済に関する講義を聴き、個人ワークや課題用紙にほとんど正答できず、未提出である。 | | |
| 2 | 学生は経済学について、プリント教材等で基礎的事項が分かり、確認試験の基礎的な問題に解答できる。 | | | | | |
| | 経済学について、プリント教材等で基礎的事項が分かり、確認試験の基礎的な問題や記述式問題に正確に答えられる。 | 経済学について、プリント教材等で基礎的事項が分かり、確認試験の基礎的な問題に一定程度答えられる。 | 経済学について、プリント教材等で基礎的事項が一部分理解し、確認試験の基礎的な問題に教員の支援を加えて最低限正答できる。 | 経済学について、プリント教材等で基礎的事項が理解できないし、確認試験の基礎的な問題に正答できない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------|--|------|----|------------|----|
| 倫理学 (Ethics) | 北夏子 (非常勤) | 3 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 学生が現代を生きる社会人及び技術者として必要とされる倫理的能力の基礎を育成するための諸問題に取り組む。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 学生が現代を生きる社会人として必要とされる倫理的な諸課題について、基本となる概念を習得し、それをもとに考察することができる。 2. 学生が倫理的な諸課題について取り上げたテキストを自ら読解し、レポートを作成し、プレゼンテーションできる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | C (人間性・社会性) 豊かな教養、技術者としての倫理観を身につけさせ、社会に貢献できる広い視野を持った技術者を育成する。 C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 授業の導入 | 1 年間の目標、授業内容・評価方法の理解と、倫理学についての理解 | 2 | | | |
| プラトンとアリストテレス | 真の幸福について考える。プラトン『ゴルギアス』、アリストテレス『ニコマコス倫理学』を読む。恋愛モデルと友愛モデルに触れる。 | 4 | | | |
| ホッブズとヒューム | 社会契約について考える。ホッブズ『リバイアサン』、ヒューム『人間本性論』を読む。 | 4 | | | |
| ルソーとカント | 自由について考える。ルソー『社会契約論』、カント『道徳形而上学の基礎づけ』を読む。 | 4 | | | |
| ベンサムとミル | 功利主義について考える。ベンサム『道徳および立法の諸原理序説』、ミル『功利主義論』を読む。 | 4 | | | |
| ニーチェとキリスト教 | 道徳について考える。ニーチェ『道徳の系譜学』、キリスト教『聖書』を読む。 | 4 | | | |
| 現代倫理学 | メタ倫理学と正義論について考える。マッキンタイア『美徳なき時代』を読む。 | 4 | | | |
| テーマ別レポート発表と討議 | 各自が選んだテーマに沿って、レポート作成、それに基づいた発表と討議を行う。 | 34 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 確認試験を 2 回実施し 30 %、平常の課題提出を 20 %、レポートと発表を 50 %とする。 | | | | |
| 関連科目 | 公民 I | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「倫理とは何か」 永井均 (筑摩書房) | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------|---|---|--|--|-----------|----|
| 倫理学 (Ethics) | 北夏子 (非常勤) | | 3 | 2 | 通年 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | <p>学生が現代を生きる社会人として必要とされる倫理的な諸課題について、基本となる概念を習得し、それをもとに考察することができる。</p> | | | | | |
| | <p>現代を生きる社会人として必要とされる倫理的な諸課題について、基本となる概念を習得しただけではなく、自ら見出した現実の問題に当てはめて、倫理的に考察を深めることができる。</p> | <p>現代を生きる社会人として必要とされる倫理的な諸課題について、基本となる概念を習得し、それを使って与えられた課題を倫理的に考察することができる。現代を生きる社会人として必要とされる倫理的な諸課題について、基本となる概念を習得している。</p> | <p>現代を生きる社会人として必要とされる倫理的な諸課題について、基本となる概念を習得している。</p> | <p>現代を生きる社会人として必要とされる倫理的な諸課題について、興味や関心がない。</p> | | |
| 2 | <p>学生が倫理的な諸課題について取り上げたテキストを自ら読解し、レポートを作成し、プレゼンテーションでできる。</p> | | | | | |
| | <p>倫理的な諸課題について取り上げたテキストを自ら読解し、意欲的にテーマ選択・レポート作成を行い、積極的に発表し、討論に応じることができる。</p> | <p>倫理的な諸課題について取り上げたテキストを自ら読解し、意欲的にテーマ選択・レポート作成を行い、発表・質疑応答できる。</p> | <p>倫理的な諸課題について取り上げたテキストを自ら読解し、テーマ選択・レポート作成を行い、発表できる。</p> | <p>倫理的な諸課題について取り上げたテキストを、講義を参考に理解することができる。</p> | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|------|----|------------|----|
| 化学特論 I (Special Topics in Chemistry I) | 井上和美 (非常勤) | 3 | 1 | 前期 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 受講生が「化学 I」で学習した内容を再確認し、応用的な内容を理解することを目的とする。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 物質量の概念を用いて、化学変化の量的関係について説明できる。 2. 気体および溶液における化学的な現象について説明できる。 3. 無機化学について深い知識を有し、産業との結びつきについて議論できる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを用いる能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンスと原子構造 | 授業に関するガイダンスと原子の構成と電子配置について復習し、電子軌道について正しく説明できる。 | 2 | | | |
| 化学式と物質量 | 物質を化学式で表現し、分子量及び物質量について定義を復習し、求められる数値を正しく算出できる。 | 3 | | | |
| 化学反応式と物質の量的関係 | 化学変化を反応式で正しく表現し、その量的関係を算出できる。 | 4 | | | |
| 周期表と化学結合 | 周期表の仕組みと結合の様式を正しく説明できる。 | 3 | | | |
| 物質の三態変化と気体 | 状態変化について復習し、特に条件の変化による気体の状態量変化について、与えられた情報から算出することができる。 | 4 | | | |
| 溶液 I (濃度・溶解度) | 溶液の濃度と溶解度について正しく説明することができる。 | 4 | | | |
| 溶液 II (コロイド溶液・浸透圧) | 溶液の束一的性質とコロイド溶液について正しく説明することができる。 | 4 | | | |
| 無機化学 | 典型元素、遷移元素、無機化学反応について正しく説明することができる。 | 4 | | | |
| 演習 | | 2 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 定期試験 (60%)、演習レポート (20%)、取組状況 (20%) の比率で評価する。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 副読本: 「基礎化学 1」 吉田泰彦 他著 (実教出版) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|---|--------------------------------------|------------------------------------|-----------|----|
| 化学特論 I (Special Topics in Chemistry I) | 井上和美 (非常勤) | | 3 | 1 | 前期 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 物質の概念を用いて、化学変化の量的関係について説明できる。 | | | | | |
| | 化学式を正確に理解し、分子量、物質量を正しく整理したうえで化学変化における量的計算を行うことができる。 | 化学反応式を正しく処理し、反応前後における物質量の变化比率を正しく処理することができる。 | 与えられた化学式から、化学反応式を正しく導き出すことができる。 | 周期表を理解できず、化学式を正しく表記することができない。 | | |
| 2 | 気体および溶液における化学的な現象について説明できる。 | | | | | |
| | 質量モル濃度を用いた、凝固点降下から、分子量を求めることができる。また、実在気体の状態変化を正しく説明することができる。 | 溶液の濃度密度を正しく理解し、質量パーセント濃度とモル濃度の返還を正しく処理することができる。 | ボイル・シャルルの式を使うことができ、各単位変化を処理することができる。 | 気体の性質を正しく理解できず、気体法則の式を導き出せない。 | | |
| 3 | 無機化学について深い知識を有し、産業との結びつきについて議論できる。 | | | | | |
| | 工業的合成法の流れを正しく理解し、反応効率や用いるべき物質量を正しく処理することができる。 | 金属元素の特徴を正しく理解し、与えられた条件から化学式を導くことができる。 | 工業的合成法の各段階における化学変化を正しく処理することができる。 | 物質量の変化を正しく処理できず、化学的变化を表記することができない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|---|------|----|------------|----|
| 化学特論 II (Special Topics in Chemistry II) | 井上和美 (非常勤) | 3 | 1 | 後期 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 受講生が「化学 II」で学習した内容を再確認し、応用的な内容を理解することを目的とする。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 化学 II で学んだ諸反応について、化学的視点から量的に説明できる。 2. 高分子化学、生命と物質といった有機化学の発展的内容について説明できる。 3. 身の回りの物質、事象について、化学的視点から思考することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンスおよび化学平衡 | ガイダンスと化学平衡について基礎を復習し、発展的内容について学ぶ。 | 4 | | | |
| 酸と塩基 | 酸・塩基反応の基礎を復習し、酸性、塩基性について正しく説明できる。 | 2 | | | |
| 中和反応と量的関係 | 中和反応についての考え方や反応に関わる量的関係について復習するとともに、緩衝溶液の pH 変化を算出できる。 | 6 | | | |
| 酸化と還元 | 酸化数の変化を通じて、酸化・還元を正しく説明できる。 | 2 | | | |
| 電気分解 | 電気分解の基礎を復習し、電気分解の反応とそれに関する量的関係を算出できる。 | 2 | | | |
| 有機化学 | 有機化学の基礎を復習し、炭化水素について正しく説明できる。 | 4 | | | |
| 高分子化学 | 高分子化学の基礎および身近にある高分子材料の設計を説明できる。 | 4 | | | |
| 生命と化学 | 糖、タンパク質、DNA といった生体関連化学について学び、構造や特徴を正しく説明できる。 | 2 | | | |
| 化学の環境への影響 | 化学の環境に及ぼす影響やそれに対する社会の取り組みについて学び、グリーンケミストリーを正しく説明できる。 | 2 | | | |
| 演習 | | 2 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 定期試験 (60%)、演習レポート (20%)、取組状況 (20%) の比率で評価する。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 副読本: 「サイエンスビューー 化学総合資料」実教出版編修部 (実教出版) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|---|-------------------------------------|--|--|-----------|----|
| 化学特論 II (Special Topics in Chemistry II) | 井上和美 (非常勤) | | 3 | 1 | 後期 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 化学 II で学んだ諸反応について、化学的視点から量的に説明できる。 | | | | | |
| | 求められる化学反応式や計算式を正しく書くことができ、その意味を正しく理解したうえで使いこなすことができる。 | 化学反応式や公式を使うことはできるが、応用的な内容になると手が詰まる。 | 化学式を与えた状況では化学反応式を作ることができ、公式を見ながら出なければ量的関係を正しく導くことができる。 | 化学式を正しく書くことができず、反応式における量的関係と物質量の相互関係が理解できていない。 | | |
| 2 | 高分子化学、生命と物質といった有機化学の発展的内容について説明できる。 | | | | | |
| | 未知の物質に対しても、物質名より構造を正しく書くことができる。 | 官能基を用いた反応を正しく理解し、その物質名を答えることができる。 | 炭化水素を中心とした基本的な反応は理解できる。 | 炭素を中心とした構造式を書くことができない。 | | |
| 3 | 身の回りの物質、事象について、化学的視点から思考することができる。 | | | | | |
| | 身の回りの物質の構造を正しく理解し、特徴的な構造からその物質の性質を説明することができる。 | 化学反応の特徴を正しく理解し、一般的な事象を思い浮かべることができる。 | 化学反応の種類から、各特徴となる生成物や化学変化を説明することができる。 | 化学反応由来の用語を正しく使うことができない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------------------------|--|------|----|------------|----|
| 日本語表現法 I (Japanese Expressions I) | 福原早希 (非常勤) | 4 | 1 | 半期 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 日本語による表現方法について、話しことば・書きことばの両面にわたって学び、論理構成や展開、表現方法などを工夫して、自分の意見を発表できることを目標とする。授業では、具体的な課題に取り組むとともに、用字用語の演習を通して、正しい言葉遣いを身につけていく。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 日本語に関する基礎知識とその特性を理解することができる。 2. 実用的な文章を適切に作成することができる。 3. 自分の意見を口頭で適切に伝えることができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | 授業の目的・方針の説明 日本語の表現の特徴 | 4 | | | |
| 話しことば | 話しことばと書き言葉の差異 場に応じた話し方 敬語の正しい使い方 意見発表をする | 8 | | | |
| 文字と表記 | 漢字・かな遣い・符号・用字用語 | 2 | | | |
| 文と文章 | 文の構造・文章の構造 | 2 | | | |
| 文章のいろいろ | 気軽に書く (書くことへの興味) | 6 | | | |
| 文章作成の実際 | 報告文を書く 説明文を書く 小論文を書く 通信文・手紙の書き方 | 8 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 平常点 (作業課題の提出とその内容) … 70 % 項目ごとの「まとめ」(レポートや小テスト) … 30 % | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | その他: 内容に応じて適宜資料を配布する | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------------------------|--|-----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|-----------|----|
| 日本語表現法 I (Japanese Expressions I) | 福原早希 (非常勤) | | 4 | 1 | 半期 2時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 日本語に関する基礎知識とその特性を理解することができる。 | | | | | |
| | 日本語に関する基礎知識とその特性に着目して書き、話すことに工夫することができる。 | 日本語に関する基礎知識とその特性に着目して書き、話すことができる。 | 日本語に関する基礎知識とその特性に関心をもつことができる。 | 日本語に関する基礎知識とその特性を理解することができない。 | | |
| 2 | 実用的な文章を適切に作成することができる。 | | | | | |
| | 実用的な文章をその目的と読み手を意識して工夫しながら作成することができる。 | 実用的な文章をその目的と読み手を意識しながら作成することができる。 | 実用的な文章を目的を意識しながら作成することができる。 | 実用的な文章を適切に作成することができない。 | | |
| 3 | 自分の意見を口頭で適切に伝えることができる。 | | | | | |
| | 聞き手に分かりやすいように、自分の意見を口頭で伝えるように工夫することができる。 | 聞き手に分かりやすいように、自分の意見を口頭で伝えることができる。 | 聞き手を意識しながら、自分の意見を口頭で伝えることができる。 | 自分の意見を口頭で適切に伝えることができない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|------|----|------------|----|
| 保健体育 IV (Health & Physical Education IV) | 坂本宗司 (常勤)・糸川岳勤 (非常勤)・青木拓郎 (非常勤) | 4 | 2 | 通年 2 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | グループ学習を通して、生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 | | | | |
| 授業の形態 | 実験・実習 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 主体的に授業へ取り組むことができる。 2. グループ内で協力しながら、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断する。 3. 集団スポーツ、個人スポーツの基本・応用技術を身につけ、体力を高めることができる。 4. ルールやマナーを守りながら、自ら安全に留意して行動することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | ガイダンスを通し、施設や用具の安全な使用方法について理解できる 仲間と協働しグループの編成、リーダーの選出、種目の選択を行うことができる | 2 | | | |
| 選択種目の決定および授業計画と実践 | 仲間と協働し種目の決定および実技ノートを作成することができる 仲間と協働し、安全に配慮し合理的、計画的な運動を実践できる 様々な選択種目の特性を理解し、主体的な実践を通し生涯スポーツの理解へと繋げることができる | 58 | | | |
| | 選択種目 バスケットボール バレーボール ソフトボール サッカー 卓球 バドミントン テニス ゴルフ フラッグフットボール アルティメット フットサル モルック ポッチャ | | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | ①授業への取組状況 60%、②学習意欲と学習成果 40%。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「現代高等保健体育 改訂版」衛藤隆、友添秀則ほか (大修館書店), 副読本: 「ステップアップ高校スポーツ 2023」高橋健夫ほか (大修館書店)・「図説 現代高等保健 令和 5 年度版」大修館書店編集部 (大修館書店) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|---|---|---|---|----|-----------|----|
| 保健体育 IV (Health & Physical Education IV) | 坂本宗司 (常勤)・糸川岳勤 (非常勤)・青木拓郎 (非常勤) | | | 4 | 2 | 通年 2時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | | |
| 1 | 主体的に授業へ取り組むことができる。 | | | | | | |
| | すべての授業で主体的に取り組んでいる。 | 主体的に授業へ取り組んでいる。 | 基準内であるが、授業への取り組みが良くない。 | 基準を超えており、授業への取り組みが悪い。 | | | |
| 2 | グループ内で協力しながら、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断する。 | | | | | | |
| | グループのリーダーとして仲間と協力しながら、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断することができる。 | グループの一員として主体的に仲間と協力しながら、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断することができる。 | グループの一員として仲間と協力しながら、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断することができる。 | グループ内で協力しながら、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断することができない。 | | | |
| 3 | 集団スポーツ、個人スポーツの基本・応用技術を身につけ、体力を高めることができる。 | | | | | | |
| | 基本・応用技術を発展させた技能を身につけゲームに活かし、体力を高めることができる。 | 運動の基本・応用技術を主体的に身につけ、体力を高めることができる。 | 運動の基本・応用技術を身につけ、体力を高めることができる。 | 運動の基本・応用技術を身につけ、体力を高めることができない。 | | | |
| 4 | ルールやマナーを守りながら、自ら安全に留意して行動することができる。 | | | | | | |
| | ルールやマナーを守りながら、自己及び仲間の安全に留意して行動することができる。 | ルールやマナーを守りながら、自己の安全に留意して行動することができる。 | 教員の指示に従って、ルールやマナーを守りながら、自己の安全に留意して行動することができる。 | ルールやマナーを守りながら、自己の安全に留意して行動することができない。 | | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|------|----|------------|----|
| 英語 IV (English IV) | 大古田隆 (常勤)・スウィニー久美子 (非常勤)・武藤美咲 (非常勤) | 4 | 3 | 通年 3 時間 | 必修 |
| 授業の概要 | 高専高学年において、理工系の各種の記事や資料を読み、同分野の基礎的な語彙の習得、資料の読み取り方法、英文記事の要点理解の能力を養成する。また、TOEIC 教材を用いた演習の反復により、TOEIC スコアアップを図る。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 科学技術や専門分野の語彙が習得できる。 2. 理工学系の論説文を読み、そのトピックについて論理的に考えることができる。 3. TOEIC スコア・アップのためのリスニング・リーディング技術の基礎を身につける。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| A: 総合英語クロス・ストリームズ Unit 8 & 9 B: 実用英語演習問題: Unit 8 & 9 | A: 「Confined Space Medicine」「The Family Bridge」の内容を理解し、文法・表現を習得できる。 B: ①「Meetings」「Clients」に関する問題に対処できる。②「Can, Could, May, Will, Would」の疑問文「現在形、過去形、進行形、前置詞」に関する問題に対処できる。 | 32 | | | |
| A: 総合英語クロス・ストリームズ Unit 10 & 11 B: 実用英語演習問題: Unit 10 & 11 | A: 「Deadly Progress」「How Much Money Is Your Life Worth?」の内容を理解し、文法・表現を習得できる。 B: ①「Events」「Sales & Marketing」に関する問題に対処できる。②「Should, Let's, how about, Why, A or B」の疑問文「完了形、受動態」に関する問題に対処できる。 | 28 | | | |
| A: 総合英語クロス・ストリームズ Unit 12 B: 実用英語演習問題: Unit 12 | A: 「Advancing Science」の内容を理解し、文法・表現を習得できる。 B: ①「Employment」に関する問題に対処できる。②「付加疑問文」「主語と動詞の一致」に関する問題に対処できる。 | 16 | | | |
| A: 総合英語クロス・ストリームズ Unit 13 B: 実用英語演習問題: Unit 13 | A: 「The Special Needs of Technical Writers」の内容を理解し、文法・表現を習得できる。 B: ①「Media」に関する問題に対処できる。②「対象が不特定な疑問文」「to不定詞と動名詞の使い分け」に関する問題に対処できる。 | 14 | | | |
| | | 計 90 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 定期試験 (70%) + 取組状況 (30%)。「取組状況」は、小テストの成績、提出物、指名発表等で測る。状況によっては再試験を行うことがある。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「総合英語: クロス・ストリームズ」松尾秀樹他 (三修社), 副読本: 「NEW HEIGHTS FOR THE TOEIC L & R TEST」Robert Hickling, 渡邊治郎 (CENGAGE Learning), 参考書: 「Seed 総合英語 (四訂新版)」(文英堂) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------------|--|---|--|--|-----------|----|
| 英語 IV (English IV) | 大古田隆 (常勤)・スウィニー久美子 (非常勤)・武藤美咲 (非常勤) | | 4 | 3 | 通年 3時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 科学技術や専門分野の語彙が習得できる。 | | | | | |
| | 科学技術や専門分野の語彙が8割習得できる。 | 科学技術や専門分野の語彙が6割習得できる。 | 科学技術や専門分野の語彙が4割習得できる。 | 科学技術や専門分野の語彙が習得できない。 | | |
| 2 | 理工学系の論説文を読み、そのトピックについて論理的に考えることができる。 | | | | | |
| | 理工学系の論説文を読み内容を理解した上で、そのトピックについて論理的に考えることができ、その内容を説明することができる。 | 理工学系の論説文を読み内容を理解した上で、そのトピックについて論理的に考えることができる。 | 理工学系の論説文を読み、そのトピックの概要を理解できる。 | 理工学系の論説文を読み、そのトピックの概要を理解できない。 | | |
| 3 | TOEIC スコア・アップのためのリスニング・リーディング技術の基礎を身につける。 | | | | | |
| | TOEIC スコア・アップのためのリスニング・リーディング技術の基礎をおおむね習得できる。 | TOEIC スコア・アップのためのリスニング・リーディング技術の基礎を半分以上習得できる。 | TOEIC スコア・アップのためのリスニング・リーディング技術の基礎を最低限習得できる。 | TOEIC スコア・アップのためのリスニング・リーディング技術の基礎を習得できない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---------------------------------|--|------|----|------------|----|
| 日本語演習 (Exercise in Japanese) | 小林雄大 (常勤) | 4 | 1 | 後期 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 敬語・文法・語彙・言葉の意味・漢字・表記といった領域の知識や理解を深められるよう演習を行い、日本語の総合的な運用能力を高めていく。また、読書後、書評を発表するなど、「読む」「書く」だけでなく、「話す」「聞く」活動を重視しながら論理的思考力や表現力を養うことによって総合的に「言葉の力」を磨き、豊かな教養を身につけることを目的とする。 | | | | |
| 授業の形態 | 演習 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 敬語、文法、語彙・言葉の意味・漢字・表記といった領域の知識や理解を深めることができる。 2. 積極的に読書に取り組み、自分の言葉で批評することができる。 3. 他者の意見を理解し、積極的に意見交換することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | 授業の概要・目的・方法を踏まえて、「日本語」を学ぶ意義や意味について考える。 | 2 | | | |
| 日本語の知識に関する演習 | 敬語・文法・語彙・言葉の意味・漢字・表記に関する演習を通じて、「日本語」についての理解を深める。 | 8 | | | |
| 読む・話す・聞く① | 課題の文章を読み、自分の意見を小論文としてまとめる。 | 10 | | | |
| 読む・話す・聞く② | 自分で選んだ本や評論について、紹介し、意見交換をする。 | 10 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 平常点 30 % (コメントシート、授業内課題、取り組み状況) 演習点 70 % (口頭発表、レポート、小テスト) | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | その他: 適宜プリントを使用する | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---------------------------------|--|---|--|---|-----------|----|
| 日本語演習 (Exercise in Japanese) | 小林雄大 (常勤) | | 4 | 1 | 後期 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 敬語、文法、語彙・言葉の意味・漢字・表記といった領域の知識や理解を深めることができる。 | | | | | |
| | 敬語・文法・語彙・言葉の意味・漢字・表記といった領域の知識や理解をさらに深めることができる。 | 敬語・文法・語彙・言葉の意味・漢字・表記といった領域の知識や理解を深めることができる。 | 敬語・文法・語彙・言葉の意味・漢字・表記といった領域の知識や理解をさらに深めようとすることができる。 | 敬語・文法・語彙・言葉の意味・漢字・表記といった領域の知識や理解をさらに深めることができない。 | | |
| 2 | 積極的に読書に取り組み、自分の言葉で批評することができる。 | | | | | |
| | 積極的に文章を読み、自分の言葉で批評することができる。 | 積極的に文章を読み、自分の言葉をまじえながら批評することができる。 | 積極的に文章を読もうとし、自分の言葉で批評する姿勢を持つことができる。 | 積極的に文章を読んだり、自分の言葉で批評しようとすることができない。 | | |
| 3 | 他者の意見を理解し、積極的に意見交換することができる。 | | | | | |
| | 他者の意見を理解し、積極的に意見交換することができる。 | 他者の意見を理解し、積極的に意見交換することができる。 | 他者の意見を理解しようとし、意見交換することができる。 | 他者の意見を理解したり、積極的に意見交換したりすることができない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|--|------|----|------------|----|
| 表象文化 I (Culture and Representation I) | 河野光将 (常勤) | 4 | 1 | 前期 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 「表象」と聞くと、映像や写真などがまず思い浮かんでくる。しかしながら、それらは表象のごく一部分であり、「表象」とはより深く豊かなものを指している。本講義では、その一部として文字による表象というものを考える。具体的には、崩し字の読解とそれを用いた作品作りを実施する。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. くずし字について理解したうえで、それらを応用して、作品をつくることができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | 授業概要および成績評価の仕方について理解する。 | 2 | | | |
| 文字史概説 | 近代以前に用いられた文字の歴史について理解する。 | 2 | | | |
| くずし字概説 | くずし字の成立過程や各字母について理解する。 | 6 | | | |
| くずし字カルタの製作 | くずし字についての知識を活用しながら、それを応用してカルタ製作に取り組む。 | 20 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | くずし字の理解 (読解) … 40 % 作品およびその取り組み… 60 % | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | その他: 適宜、資料を配布する | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|--|------------------------------------|---------------------|--|-----------|----|
| 表象文化 I (Culture and Representation I) | 河野光将 (常勤) | | 4 | 1 | 前期 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | くずし字について理解したうえで、それらを応用して、作品をつくることができる。 | | | | | |
| | くずし字について理解した上で、それらを応用してわかりやすく表現することができる。 | くずし字について理解した上で、それらを応用して表現することができる。 | くずし字について理解することができる。 | くずし字について理解することができず、それらを用いて表現することもできない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------|--|------|----|-----------|----|
| 地理学 (Geography) | 原田洋一郎 (常勤) | 4 | 2 | 通年 2時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 地理学の見方や考え方の基礎について、具体的な事例を通して理解し、人間の生活する空間を総合的に捉える能力を身につける。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 地理学の基本的な見方・考え方を身につけることができる。 2. 現実の世界における課題を見出し、情報収集、考察をおこない、得られた結果を適切に表現できる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | C (人間性・社会性) 豊かな教養、技術者としての倫理観を身につけさせ、社会に貢献できる広い視野を持った技術者を育成する。 C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 【前期】 | | | | | |
| 1. 導入 | 一年間の目標、授業内容・評価方法について理解する | 2 | | | |
| 2. 地理学における景観 | 地理学における「景観」の捉え方を理解する | 4 | | | |
| | 写真や地形図の読み取りを通じて、地域の景観や特徴を把握する力を身につける | 10 | | | |
| まとめと演習 (1) | レポートの作成、または理解度確認課題を通じて、ここまでの学習成果を確認する | 2 | | | |
| 3. 地理学における環境 | 地理学における「環境」の捉え方を理解する | 2 | | | |
| | 地球環境問題について考える | 4 | | | |
| | 地理学と地政学について考える | 4 | | | |
| まとめと演習 (2) | レポートの作成、または理解度確認課題を通じて、ここまでの学習成果を確認する | 2 | | | |
| 【後期】 | | | | | |
| 4. 生活空間の地理 | 都市の景観や空間構造について考える | 2 | | | |
| | 農村の景観や空間構造について考える | 6 | | | |
| | 生活や行動について地理学の視点を通して考える | 6 | | | |
| まとめと演習 (3) | レポートの作成、または理解度確認課題を通じて、ここまでの学習成果を確認する | 2 | | | |
| 5. 開発と地域 | 日本における耕地開発と地域形成・地域変化について学ぶ | 6 | | | |
| | 海外における産業・資源開発と地域形成・地域変化について学ぶ | 6 | | | |
| まとめと演習 (4) | レポートの作成、または理解度確認課題を通じて、ここまでの学習成果を確認する | 2 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 演習点 (レポートまたは理解度確認課題) の成績 (70%)、平常点 (授業での作業やコメントシートへの記述) の成績 (30%) によって評価する。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | その他: 地図帳 (1 学年で用いたものなど) の持参を勧める。その他の参考文献については、必要に応じて授業内で紹介する。 | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--------------------|---|----------------------------|------------------------------|------------------------------|-----------|----|
| 地理学 (Geography) | 原田洋一郎 (常勤) | | 4 | 2 | 通年 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 地理学の基本的な見方・考え方を身につけることができる。 | | | | | |
| | 地理学の見方・考え方を活かして、具体的な課題について考察することができる。 | 地理学の見方・考え方を理解することができる。 | 地理学の基本的な見方・考え方に興味をもつことができる。 | 地理学の基本的な見方・考え方に興味をもつことができない。 | | |
| 2 | 現実の世界における課題を見出し、情報収集、考察をおこない、得られた結果を適切に表現できる。 | | | | | |
| | 情報や資料の分析・考察を通じて、妥当な結論を導き出し、わかりやすく表現できる。 | 課題を解決するために適切な情報や資料の収集ができる。 | 現実の世界について興味をもち、課題を見出すことができる。 | 社会・文化等、現実の世界に興味をもつことができない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------------------|--|------|----|------------|----|
| キャリアデザイン (Career Design) | 田中淳 (常勤) | 4 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 学生と社会人との接続性を高め、技術者として社会で生きていくための「生き抜く力」を身につける。学生が、①働くことを考え、②業種・業界・個別企業を知る、③自分を発見する、④キャリアを描く、⑤志望理由を書く、⑥労働・雇用を知るなどの考察を行い、進路に関するキャリアデザインを描く。就職希望の学生だけでなく、進学希望の学生も選択できる。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 学生がインターンシップや進路に対して興味を持ち、探索方法を考えることができる。 2. 学生が授業で習ったことから自己を分析し、自己 PR・志望動機の作文を作成できる。 3. 学生がキャリア理論の講義と教材の意味が分かり、達成試験に解答できる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| オリエンテーション | 1 年間の目標、授業内容・評価方法を把握する。 | 2 | | | |
| 職業研究 | 働くことについて考える。高専生の将来の仕事を把握する。 | 4 | | | |
| 業界・企業研究 | 業界や業種を調べる。企業の風土や、社会人の活躍ぶり、会社の理念、組織を調べ、調べる方法を身につける。 | 6 | | | |
| インターン準備 | インターンの準備のため、履歴書・封書の書き方等を理解する。 | 6 | | | |
| 志望理由と自己理解 | 自己 PR, 志望理由を書き、企業にアクセスする。 | 12 | | | |
| 就職活動戦略 | これからの就職活動に向けて、自分の計画を立てる。 | 2 | | | |
| 就活スキル | エントリーシートや履歴書の書き方、面接準備などの作業を行い、就職活動のスキルを手に入れる。 | 6 | | | |
| キャリア理論と達成試験 | 労働条件や賃金、キャリア理論 (スーパー、シュロスパーグ、シャイン、クランボルツ) などを学習し、達成試験を実施する。 | 10 | | | |
| 職業探索 | 業界や業種、個別企業を就活サイトを用いて研究する。企業比較を行う。 | 6 | | | |
| 意思決定 | やりがいの発見を通して、意思決定のプロセスを自分に適用できる。 | 4 | | | |
| まとめ | 就職活動への準備ワークシートを行う。 | 2 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | キャリア理論に関する達成試験 (50 %) と課題 (50 %) で評価するが、再試を行う場合がある。 | | | | |
| 関連科目 | 公民 II | | | | |
| 教科書・副読本 | 参考書: 「会社四季報業界地図 2026 年版」東洋経済新報社 (東洋経済新報社), その他: その都度、指定する。 | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------------------|--|--|--|---|-----------|----|
| キャリアデザイン (Career Design) | 田中淳 (常勤) | | 4 | 2 | 通年 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 学生がインターンシップや進路に対して興味を持ち、探索方法を考えることができる。 | | | | | |
| | インターンシップ等に興味を持ち「触れる・学ぶ・出会う・試す」の探索方法を理解し自分の力で考えられる。 | インターンシップ等に興味を持ち「触れる・学ぶ・出会う・試す」の探索方法を一部分理解し自分の力で考えられる。 | インターンシップ等に興味を持ち「触れる・学ぶ・出会う・試す」の探索方法を教員の支援がないと考えられない。 | 進路に対して興味がなく、「触れる・学ぶ・出会う・試す」の探索方法を理解できず、提出もできない。 | | |
| 2 | 学生が授業で習ったことから自己を分析し、自己PR・志望動機の作文を作成できる。 | | | | | |
| | 個人ワークを通じて自己PR・志望動機の内容を分析し、適切な分量の作文で、他の学生より表現力が高い。 | 個人ワークを通じて自己PR・志望動機の内容を分析し、適切な分量の作文で、他の中位の学生と同等な表現力である。 | 個人ワークを通じて自己PR・志望動機の内容を分析し、指示した必要最低限な文章量で表現できる。 | 個人ワークを通じて自己PR・志望動機の内容を分析したが、作文の量が不十分か未提出である。 | | |
| 3 | 学生がキャリア理論の講義と教材の意味が分かり、達成試験に解答できる。 | | | | | |
| | キャリア理論について、プリントを十分に記憶し、達成試験に自分の力で正答を書くことができる。 | キャリア理論について、プリントを理解し、達成試験に自分の力で一定程度の正答を書くことができる。 | キャリア理論について、プリントを半分程度理解し、達成試験に半分程度正答できる。 | キャリア理論について、プリントの理解が不十分で、達成試験に正答できない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---------------------|--|------|----|------------|----|
| 心理学 (Psychology) | 和田倫明 (非常勤) | 4 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 学生が、生活の中では現代を生きる社会人として、及び技術者としては仕事に取り組む上で役立てられるような、心理学の基礎知識と応用力を身に付けることを目的とする。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 心理学の基本概念を理解できる。 2. 心理学に関連する社会的な問題について考察することができる。 3. 心理学の基本概念を用いて、自己や他者のメンタルヘルスの向上について考察することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | C (人間性・社会性) 豊かな教養、技術者としての倫理観を身につけさせ、社会に貢献できる広い視野を持った技術者を育成する。 C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 心理学入門 | 心理学の歴史、領域、方法について学ぶ | 2 | | | |
| 感覚と知覚 | 感覚と知覚の仕組みを知る。 | 6 | | | |
| 記憶 | 記憶のプロセスや種類、仕組みを学ぶ。 | 6 | | | |
| 学習 | 条件づけをはじめとする学習理論、行動心理学を学ぶ。 | 8 | | | |
| 感情 | 感情のプロセスや種類、仕組みを学ぶ。 | 8 | | | |
| モチベーション | モチベーションの仕組みとその高め方を学ぶ。 | 6 | | | |
| パーソナリティ | パーソナリティの諸理論、測定について学ぶ。 | 8 | | | |
| 発達 | 発達心理学の諸理論について学ぶ。 | 8 | | | |
| 社会 | 社会心理学の諸理論について学ぶ。 | 8 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 毎回提出の受講ノートの合計点を平常点とし、平常点と確認試験を 3 : 7 の割合で評価する。遠隔授業で確認試験が実施されない期間は、提出課題を 10 割とする。 | | | | |
| 関連科目 | 公民 I | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「心理学 AtoB [改訂版]」 佐藤基治ほか (培風館) | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---------------------|---|---|--|---|-----------|----|
| 心理学 (Psychology) | 和田倫明 (非常勤) | | 4 | 2 | 通年 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 心理学の基本概念を理解できる。 | | | | | |
| | 心理学の基本概念を、自ら調べて理解を深めている。 | 心理学の基本概念を、授業で取り扱う範囲について理解している。 | 心理学の基本概念を、授業で取り扱った中で半分以下理解している。 | 心理学の基本概念を、授業で取り扱ったにもかかわらず半分以下しか理解していない。 | | |
| 2 | 心理学に関連する社会的な問題について考察することができる。 | | | | | |
| | 心理学に関する社会的な問題について、強い興味・関心を持ち、意欲的に課題を見いだして考察できる。 | 心理学に関する社会的な問題について、興味・関心を持ち、授業で取り扱った知識をもとに考察できる。 | 心理学に関する社会的な問題について、教材に即して考察しようとする。 | 心理学に関する社会的な問題について、興味・関心がない。 | | |
| 3 | 心理学の基本概念を用いて、自己や他者のメンタルヘルスの向上について考察することができる。 | | | | | |
| | 自己や他者のメンタルヘルスの向上に強い興味・関心を持ち、その向上について、学んだことを応用して心理学的に考察することができる。 | 自己や他者のメンタルヘルスの向上に興味・関心を持ち、その向上について考察しようとする。 | 自己や他者のメンタルヘルスの向上に興味・関心を持ち、話題にすることができる。 | 自己や他者のメンタルヘルスの向上に興味・関心がない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------------------|--|------|----|------------|----|
| 数学演習 (Exercises in Mathematics) | 荒木康太 (非常勤) | 4 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 大学編入や専攻科進学を目指す学生または数学の学習にとっても意欲的な学生が、大学編入試験レベルの問題で演習を行い、難度の高い数学の知識や計算技法を身につける。 | | | | |
| 授業の形態 | 演習 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 大学編入向けの標準的な問題を解くことができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 解析学 (微分積分・偏微分・重積分・微分方程式) | 基本的な微分積分・偏微分・重積分の問題および微分方程式などを解くことができる。 | 40 | | | |
| 線形代数学 | ベクトルと図形の問題や行列と行列式の問題および線形変換・固有値・固有ベクトルの問題などを解くことができる。 | 20 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 演習課題 (6 割) および確認テスト等 (4 割) で評価する。 | | | | |
| 関連科目 | 微分積分・解析学基礎・線形代数 I・線形代数 II | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「大学編入のための数学問題集 改訂版」 碓水久 ほか 7 名 (大日本図書) | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------------------|--|--|---|--|-----------|----|
| 数学演習 (Exercises in Mathematics) | 荒木康太 (非常勤) | | 4 | 2 | 通年 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 大学編入向けの標準的な問題を解くことができる。 | | | | | |
| | 大学編入試験の標準以上のレベルの問題を自力で解くことができる。解けない場合でも、自学自習や情報収集により正しい解き方を見つけることができる。 | 大学編入試験の標準レベルの問題を自力で解くことができ、解けない場合でも適切なアドバイスがあれば正答に到達できる。 | 編入試験問題の内容と学習済みの知識との関連を理解し、問題を解くための基礎知識を身につけている。 | 編入試験問題の内容と既習の学習内容との関連を認識できず、問題を解くための基礎知識を十分に活用できない状態である。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------------------|--|------|----|------------|----|
| 数学演習 (Exercises in Mathematics) | 矢吹康浩 (常勤) | 4 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 工業高校から編入学してきた学生を対象とした数学演習を行う。学生が、高等学校のカリキュラムでは学び得ない高専本科 3 学年までの数学の学習内容を習得することを目的とする。 | | | | |
| 授業の形態 | 演習 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 1 変数・2 変数の微分積分学の基礎概念を理解し、微分・積分の計算や簡単な応用問題（曲線・面の性質の解析など）ができる。 2. 微分方程式の基本概念と解法の基礎を理解し、簡単な 1 階・2 階の微分方程式を解くことができる。 3. 線形代数の基礎理論を理解し、行列計算、連立一次方程式の解法、ベクトルの性質の解析に応用できる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 数列と級数 | 等差・等比数列などの各種数列の定義と性質を理解し、和や級数の計算を通じて簡単な応用問題に対応できる。 | 4 | | | |
| 1 変数関数の微分法 | 1 変数関数の微分の基本事項を復習し、指数関数・対数関数・三角関数・逆三角関数の導関数の計算練習を行う。 | 4 | | | |
| 1 変数関数の積分法 | 1 変数関数の積分の基本事項を復習し、定積分・不定積分の計算練習を通じて理解を深める。 | 4 | | | |
| 1 変数関数の微分法の応用 | べき級数とマクローリン展開について学び、具体的な関数展開や近似計算に応用することができる。 | 4 | | | |
| 1 変数関数の積分法の応用 | 図形の面積や回転体の体積を求めたり、フーリエ係数を求める問題を解くことができる。 | 4 | | | |
| 常微分方程式 | 1 階および 2 階の基本的な線形微分方程式の解法を学び、計算演習を通じて理解を深める。 | 4 | | | |
| 2 変数関数の微分法 | 2 変数関数の基本的な概念を理解し、偏微分の計算ができるようにする。 | 4 | | | |
| 2 変数関数の微分法の応用 | 2 変数関数の極値の求め方や条件付き極値問題の解法を理解する。 | 4 | | | |
| 2 重積分 | 2 変数関数の積分の概念を理解し、2 重積分を計算できるようにする。また、極座標を用いた 2 重積分の計算手法を習得する。 | 4 | | | |
| 2 重積分の応用 | 立体の体積や曲面の面積および図形の重心を求める方法を習得する。 | 4 | | | |
| ベクトルの基礎 | 平面および空間ベクトルの基本演算を習得する。また、内積の概念を理解し、計算練習を行う。 | 4 | | | |
| 行列・行列式の基礎 | 空間座標や行列・行列式の定義と基本計算を理解し、正則行列の逆行列を求めることができる。 | 4 | | | |
| 行列と連立 1 次方程式 | 掃き出し法や逆行列を用いた連立 1 次方程式の解法を理解する。 | 4 | | | |
| 行列の固有値・固有ベクトル | 行列の固有値および固有ベクトルを求めることができる。 | 4 | | | |
| 行列の対角化 | 行列の対角化の方法を理解し、2 次形式の標準化などの応用問題を解くことができる。 | 4 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 演習課題により評価する。 | | | | |
| 関連科目 | 微分積分・解析学基礎・応用数学 I・線形代数 I・線形代数 II | | | | |
| 教科書・副読本 | 参考書: 「新 微分積分 I 改訂版」高遠節夫他 (大日本図書)・「新 微分積分 II 改訂版」高遠・斉藤他 (大日本図書)・「新 線形代数 改訂版」高遠節夫他 (大日本図書), その他: 授業内で適宜指示する | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------------------|--|--|---|---|-----------|----|
| 数学演習 (Exercises in Mathematics) | 矢吹康浩 (常勤) | | 4 | 2 | 通年 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 1変数・2変数の微分積分学の基礎概念を理解し、微分・積分の計算や簡単な応用問題(曲線・面の性質の解析など)ができる。 | | | | | |
| | 基本的な多変数関数の偏微分・二重積分の計算手法を理解し、領域の面積や体積の計算などに応用できる。 | 基本的な2変数関数の偏微分と重積分の計算手法を理解し、簡単な問題を自力で解ける。 | 1変数関数の微分・積分の計算手法を理解し、曲線の傾きや面積の計算などに応用できる。 | 基本的な1変数関数の微分・積分ができない。 | | |
| 2 | 微分方程式の基本概念と解法の基礎を理解し、簡単な1階・2階の微分方程式を解くことができる。 | | | | | |
| | 2階の定数係数非斉次線形微分方程式が解ける。 | 2階の定数係数斉次線形微分方程式が解ける。 | 1階の線形微分方程式が解ける。 | 変数分離形の1階微分方程式が解けない。 | | |
| 3 | 線形代数の基礎理論を理解し、行列計算、連立一次方程式の解法、ベクトルの性質の解析に応用できる。 | | | | | |
| | 正方行列の固有値・固有ベクトルを求め、行列の対角化を通じて連立方程式や線形変換の性質を解析できる。 | 正方行列の固有値・固有ベクトルの意味を理解し、それらを求めることができる。 | 正方行列の逆行列の計算方法を理解し、行列を用いた連立一次方程式の解法に応用できる。 | ベクトルや行列の基本概念が理解できず、ベクトルの内積や行列の乗法の計算ができない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|---|------|----|------------|----|
| 数学特論 I (Special Topics in Mathematics I) | 川崎雄貴 (常勤) | 4 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 概要： 工学の専門科目を学ぶ上で必要不可欠な数学の一分野である。また、2、3年で学んだベクトルや行列を一般の場合に拡張し、固有値、対角化などを学び、数学の他の分野や工学でどのように使われるかを学ぶ。編入を予定している学生にとっても必須の科目である。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. ベクトル空間や線形写像の意味およびその性質を理解し、基本的な問題を解くことができる。 2. これまで勉強したベクトルや1次変換を新たな視点で捉え直し、応用することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 行列の正則性 | 行列の正則性とベクトルの独立性に関して復習する。 | 2 | | | |
| 集合 | 集合について学ぶ。 | 2 | | | |
| 数ベクトル | 数ベクトルの概念について学ぶ。 | 2 | | | |
| 1次独立性・1次従属性 | ベクトルの1次独立性及びその判定法について学ぶ。 | 2 | | | |
| 基底 | ベクトル空間の基底, 基底変換について学ぶ。 | 4 | | | |
| 内積 | 内積やノルムの定義について学ぶ。 | 2 | | | |
| 正規直交基底とグラム・シュミットの直交化法 | グラム・シュミットの直交化法により正規直交基底を構成する方法を習得する。 | 2 | | | |
| 直交行列 | 直交行列の定義を学ぶ。 | 2 | | | |
| 線形変換 | 数ベクトル空間における変換を学ぶ。 | 4 | | | |
| 固有値と固有ベクトル | 固有値と固有ベクトルの求め方を習得する。 | 2 | | | |
| 行列の対角化 | 行列の対角化の方法を学ぶ。 | 6 | | | |
| 線形写像 | 線形写像を学ぶ。 | 2 | | | |
| 部分空間 | 部分空間の概念について学ぶ。 | 2 | | | |
| 部分空間の基底・次元 | 部分空間の基底と次元について理解する。 | 2 | | | |
| 線形写像と部分空間 | 核空間、像空間、次元定理について学ぶ。 | 4 | | | |
| 直交補空間 | 直交補空間の概念について学ぶ。 | 2 | | | |
| 一般のベクトル空間 | 今まで行ってきたことを一般のベクトル空間で行う。 | 9 | | | |
| 複素数ベクトル空間 | 複素数で表現されるベクトル空間について学ぶ。 | 9 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 定期試験の得点 40%と課題等への取り組み状況 60%から評価する。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「はじめて学ぶベクトル空間」 碓氷久 他 4 名 (大日本図書) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|-------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------|----|
| 数学特論 I (Special Topics in Mathematics I) | 川崎雄貴 (常勤) | | 4 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | ベクトル空間や線形写像の意味およびその性質を理解し、基本的な問題を解くことができる。 | | | | | |
| | 問題をイメージで捉えることができ、ベクトルの内積や行列の対角化などを用いて図形的な問題を解くことができる。 | グラム・シュミットの直交化法や行列を対角化する方法について理解している | 内積やノルムの概念や基本的な性質を理解している。 | 数ベクトルについて、内積やノルムを計算することができない。 | | |
| 2 | これまで勉強したベクトルや1次変換を新たな視点で捉え直し、応用することができる。 | | | | | |
| | 一般のベクトル空間、複素ベクトル空間について理解し、イメージでとらえることができ、今まで学んできたベクトル空間との関係が理解でき、関わる問題を解くことができる。 | 一般のベクトル空間に関わる問題を解くことができる | ベクトル空間や線形写像に関する基礎的な用語の意味を理解している。 | ベクトル空間や線形写像に関する基礎的な用語の意味が理解できない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|----------------------------------|---|------|----|------------|----|
| 工業化学概論 (Industrial Chemistry) | 豊島雅幸 (常勤) | 4 | 1 | 前期 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 受講生が「化学 I」・「化学 II」で学習した内容をもとに、実験を通じてより実用性の高い応用的な内容を講義する。特に、低分子の有機合成を用いて、反応進行の確認や官能基について理解することを目的とする。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 学習した化学の基礎原理を通じて、有機物質の化学変化を理解し議論することができる。 2. 有機物質の構造変化を理解し、必要な物質測定を議論することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | 本講義のガイダンスおよび、実験における注意と内容を確認する | 2 | | | |
| 命名法 | 有機物質の構造を IUPAC 命名法で表記できる。 | 6 | | | |
| 有機化学反応 | 官能基の反応を正しく説明できる。 | 4 | | | |
| 生体に関与する有機物質 | 糖、アミノ酸の構造を理解し、立体配座や結合を正しく説明できる。 | 4 | | | |
| 元素分析、構造解析 | 物質の元素分析の方法と、構造解析の手法と通じて、未知の物質の物質同定ができる。 | 6 | | | |
| 構造解析 | 実験で用いた物質の構造を解析し、得られた物質を同定できる。 | 4 | | | |
| 演習 | 授業内容の確認を行う | 2 | | | |
| 総括 | 本講義の総括を行う | 2 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 定期試験 (40%)、レポート (40%)、取組状況 (20%) の比率で評価する。 | | | | |
| 関連科目 | 化学 I・化学 II・化学特論 I・化学特論 II | | | | |
| 教科書・副読本 | 参考書: 「工学のための有機化学 [新訂版]」 荒井貞夫 著 (サイエンス社)・「有機化合物のスペクトルによる同定法 (第 8 版)」 R. M. Silverstein 著 (東京化学同人)・「マクマリー有機化学概説 第 6 版」 (東京化学同人) | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|----------------------------------|---|-----------------------------|-------------------------|----------------------|-----------|----|
| 工業化学概論 (Industrial Chemistry) | 豊島雅幸 (常勤) | | 4 | 1 | 前期 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 学習した化学の基礎原理を通じて、有機物質の化学変化を理解し議論することができる。 | | | | | |
| | 目的物から、必要となる反応物を議論することができるだけでなく、反応に必要な官能基の変化を導くことができる。 | 目的物から、必要となる反応物を導き出すことができる。 | 反応物から生成される物質を導き出すことができる | 化学反応を理解することができない。 | | |
| 2 | 有機物質の構造変化を理解し、必要な物質測定を議論することができる。 | | | | | |
| | 構造の違いを理解し、最適な測定方法を議論することができる。 | 測定結果の違いから、反応の進行を理解することができる。 | 反応式から構造変化を理解することができる。 | 物質の構造変化を理解することができない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|---|------|----|------------|----|
| 総合化学特論 (Special Topics in Chemistry) | 井上和美 (非常勤) | 4 | 1 | 後期 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 受講学生が、「化学Ⅱ」、「化学特論Ⅱ」および「工業化学概論」などで学習した有機化学分野の中で、特にプラスチック材料となる高分子の合成や物性について、講義や実験を通じて深く理解し、材料設計などを行うために発展的な内容を議論できるようにする。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 受講学生が、学習した基礎原理を通じて、高分子材料の基礎となる高分子合成に対する理解を深め、材料設計における機能性の導入や合成法について議論できる。 2. 受講学生が、身近に存在する高分子物質について、材料化学的な視野で説明することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | 本講義において扱う内容を具体的にこれまでの学習内容と比較して述べる | 2 | | | |
| 高分子の基礎 | 高分子の基本的な特徴を資料を用いて説明する | 4 | | | |
| 高分子の分子量 (基本事項と測定法) | 高分子物質の分子量について、その捉え方と具体的な測定法について説明する | 4 | | | |
| 高分子の合成 (分類) | 高分子の合成について、その種類と重合法について分類し、概念を正確に関係づける | 4 | | | |
| 連鎖重合 (付加重合と開環重合) | 連鎖重合に分類される付加重合と開環重合について、その基本概念を正確に解釈する | 6 | | | |
| 逐次重合 (重縮合と重付加) | 逐次重合に分類される重縮合と重付加について、その基本概念を正確に解釈する | 6 | | | |
| 演習 | 授業内容の確認を行うと共に、具体的な例について説明できるよう演習を行う | 2 | | | |
| 総括 | 演習で理解できたことと、実験を行ったことで理解できたことを関係づけ、高分子の合成について化学的な視点で解釈する | 2 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 定期試験：40 %、実験報告書 40 %、取り組み状況 20 % (定期試験解答内容 10 %、実験実施状況 10 %) の比率で評価する。定期試験：後期中間試験期間あるいは前後の授業時間中、実験報告書：提出期限：実験内容終了後～後期期末試験期間前。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 参考書: 「高分子化学入門」 蒲池幹治著 (株式会社エヌ・ティー・エス)・「工学のための高分子材料化学」 川上浩良 著 (サイエンス社)・「有機化合物のスペクトルによる同定法 (第 8 版)」 R. M. Silverstein 著 (東京化学同人)・「高分子合成化学」 遠藤 剛 他 (化学同人) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|---|--------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------------|-----------|----|
| 総合化学特論 (Special Topics in Chemistry) | 井上和美 (非常勤) | | 4 | 1 | 後期 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 受講学生が、学習した基礎原理を通じて、高分子材料の基礎となる高分子合成に対する理解を深め、材料設計における機能性の導入や合成法について議論できる。 | | | | | |
| | 重合における保護基の用い方を正しく理解し、溶媒・開始剤・重合方法を正しく説明できる | 重合進行の機構を正しく理解し、必要な開始剤や諸条件を選択することが出来る | 指示されたモノマーより得られる高分子を記すことが出来る | 指示されたモノマーの重合点 (反応箇所) を理解することが出来ない | | |
| 2 | 受講学生が、身近に存在する高分子物質について、材料化学的な視野で説明することができる。 | | | | | |
| | 示された材料の構成構造から、合成方法や加工方法を正しく説明できる | 示された材料の物質名からその構造式とモノマーの構造式を記すことが出来る | 示された材料の物質名からその構造式を記すことが出来る | 示された物質名から生成反応の機構が理解できない | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|---|------|----|------------|----|
| 実用英語 (Practical English) | 大古田隆 (常勤) | 4 | 1 | 前期 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 実用的な英語を志向する際に身につけておくべき英語全般に関する基礎的な知識を得て、語学力を向上させる。その際、自ら学びを得よう積極的に授業に参加し学習する姿勢が求められる。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. ビジネスにおける様々な英語表現に触れる。 2. 授業で扱う英文法の基礎知識を身に付ける。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| Unit 1 テスト形式を知る | 会話・説明文問題の攻略ポイントを理解できる。 読解問題の攻略ポイントを理解できる。 | 2 | | | |
| Unit 2 基本戦略① | 先読みの方法を理解理解できる。 読める文章の見極めを理解理解できる。 | 2 | | | |
| Unit 3 基本戦略② | <疑問詞>と<主語>の情報を理解できる。 高難度の文書の見抜き方を理解できる。 | 2 | | | |
| Unit 4 英文の基本構造を見抜く | <全体を問う設問>を理解できる。 <表><リスト><フォーム>の文章を理解できる。 | 2 | | | |
| Unit 5 解答根拠の登場順 | 設問のヒントを発見できる。 <チャット>形式の文章を理解できる。 | 2 | | | |
| 前半のまとめ 確認テスト 1 | 既習事項のまとめ | 2 | | | |
| 前半の総復習 | 理解の確認 | 2 | | | |
| | | 計 14 | | | |
| Unit 6 正解の言い換えパターンを知る | 正解の<言い換えパターン>を理解できる。 <広告>形式の文章を理解できる。 | 2 | | | |
| Unit 7 機能疑問文を聞き取る | <注文確認>や<留守番電話メッセージ>を聞き取れる。 <Eメール><社内メモ>形式の文章を理解できる。 | 2 | | | |
| Unit 8 動詞の時制を見極める | <スケジュール変更>や<交通情報>の聞き取れる。 <手紙>形式の文章を理解できる。 | 2 | | | |
| Unit 9 接続詞 vs. 前置詞 | <イベントへの誘い>や<交通機関のアナウンス>を聞き取れる。 <記事>形式の文章を理解できる。 | 2 | | | |
| Unit 10 複数パッセージの攻略 | <仕事の依頼>や<広告>を聞き取れる。 <複数パッセージ問題>形式の文章を理解できる。 | 2 | | | |
| 後半のまとめ 確認テスト 2 | 既習事項のまとめ | 2 | | | |
| 後半の総復習 | 理解の確認 | 2 | | | |
| Unit 11 接続副詞に強くなる (前半) | <求人・採用><ツアーの事前説明>を聞き取れる。 | 2 | | | |
| Unit 11 接続副詞に強くなる (後半) 全体の復習、Post-test | <照合作業が必要な設問>形式の文章を理解できる。 講義全体の内容の総復習。TOEIC と同じ形式の問題をテスト形式で解き、実力を把握する。 | 2 | | | |
| | | 計 16 | | | |
| | | 計 30 | | | |

| | |
|-----------|--|
| 学業成績の評価方法 | 試験×2回(70%)＋取組状況(30%)。「取組状況」は、小テストの成績、提出物などで測る。状況に応じて再試験を行う場合がある。 |
| 関連科目 | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「LEVEL-UP TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition」横川綾子, Tony Cook (CENGAGE Learning) |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------------------|--|--|----------------------------------|------------------------------------|-----------|----|
| 実用英語 (Practical English) | 大古田隆 (常勤) | | 4 | 1 | 前期 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | ビジネスにおける様々な英語表現に触れる。 | | | | | |
| | 設定された時間内で、辞書などを用いなくても英文の概要を読み取ることができる。 | 設定した時間内に英文の概要を読み取ることができる。 | 時間をかけて、辞書などを使えば英文の概要を読み取ることができる。 | 時間をかけて、辞書などを使っても英文の概要を読み取ることができない。 | | |
| 2 | 授業で扱う英文法の基礎知識を身に付ける。 | | | | | |
| | 授業で扱う英文法の基礎知識を正確に理解し、説明することができる。 | 授業で扱う英文法の基礎知識を自ら参考書を読んだり調べることによって正確に理解できる。 | 授業で扱う英文法の基礎知識を教員の説明を聞いて理解できる。 | 授業で扱う英文法の基礎知識を教員の説明を聞いても理解できない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|------|----|------------|----|
| 英語特論 (Special English Seminar) | 武藤美咲 (非常勤) | 4 | 1 | 後期 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 大学編入試験レベルの英文を読めるようになるために、構文把握力とその基礎となる文法項目の習得をする。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 英文の構造を把握し英文の意味を理解できる。 2. 英文の構造を把握するための文法が理解できる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| Lesson 6 進行形 The Storm | 進行形を理解できる。The Storm の内容を理解できる。 | 2 | | | |
| Lesson 7 完了形 (1) Public Works for the State and for the Citizens | 完了形を理解できる。Public Works for the State and for the Citizens の内容を理解できる。 | 2 | | | |
| Lesson 8 完了形 (2) Riding an Old Steam Train | 完了形の応用を理解できる。Riding an Old Steam Train の内容を理解できる。 | 2 | | | |
| Lesson 11 関係詞 (1) What's in a Name? | 関係詞を理解できる。What's in a Name の内容を理解できる。 | 2 | | | |
| Lesson 12 関係詞 (2) You Are What You Eat | 関係詞の応用を理解できる。You Are What You Eat の内容を理解できる。 | 2 | | | |
| Lesson 15 不定詞 (1) The Future for Farmers | 不定詞を理解できる。The Future for Farmers の内容を理解できる。 | 2 | | | |
| 確認テスト 1 Lesson 16 不定詞 (2) The Extraordinary Steve Jobs 前半 | 既習事項のまとめ 不定詞の応用を理解できる。 | 2 | | | |
| | | 計 14 | | | |
| Lesson 16 不定詞 (2) The Extraordinary Steve Jobs 後半 | 既習事項のまとめ The Extraordinary Steve Jobs の内容を理解できる。 | 2 | | | |
| Lesson 17 分詞 (1) A Cool Memory | 分詞を理解できる。A Cool Memory の内容を理解できる。 | 2 | | | |
| Lesson 18 分詞 (2) Holmes? Watson? | 分詞の応用を理解できる。Holmes? Watson? の内容を理解できる。 | 2 | | | |
| Lesson 19 動名詞 (1) Aussie English | 動名詞を理解できる。Aussie English の内容を理解できる。 | 2 | | | |
| Lesson 25 仮定法 (1) Garfield | 仮定法過去・過去完了を理解できる。Presenting Successfully の内容を理解できる。 | 2 | | | |
| Lesson 26 仮定法 (2) "What's if..." | 仮定法の応用を理解できる。"What's if..." を理解できる。 | 2 | | | |
| 後半のまとめ 確認テスト 2 | 既習事項のまとめ | 2 | | | |
| 全体の復習 | 講義全体の内容の総復習 | 2 | | | |
| | | 計 16 | | | |
| | | 計 30 | | | |

| | |
|-----------|---|
| 学業成績の評価方法 | 確認テスト 7 割、平常点 3 割（提出物・発表等）から総合的に評価する。状況に応じて再試験を行う場合がある。 |
| 関連科目 | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「New English Master リーディングにつなげる英文法」北山 長貴 Margaret Yamanaka 福井 慶一郎 (成美堂), その他: フリーテキスト |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|-----------------------------------|---|--|---|--|-----------|----|
| 英語特論 (Special English Seminar) | 武藤美咲 (非常勤) | | 4 | 1 | 後期 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 英文の構造を把握し英文の意味を理解できる。 | | | | | |
| | 英文の構文を把握し、正しく理解した上で訳出できる。 | 英文の構文を把握し、正しく理解できる。 | 英文の構文を全て把握できないが、主述関係は理解できる。 | 英文の構文を把握できず、主述関係も理解できない。 | | |
| 2 | 英文の構造を把握するための文法が理解できる。 | | | | | |
| | 英文の構造を把握するための知識が定着しており、英文解釈や文法演習に応用できる。 | 英文の構造を把握するための知識が整理できており、英文解釈や文法が理解できる。 | 英文の構造を把握するための知識を整理できていないが、英文解釈や文法演習における文章の主述関係を理解できる。 | 英文の構造を把握するための知識が定着しておらず、英文解釈や文法演習における文章の主述関係を理解できない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------------|---|------|----|------|----|
| 課題研究 (Task-based Studies) | 矢吹康浩 (常勤) | 4 | 1 | 集中 | 選択 |
| 授業の概要 | 線形代数の工学への応用のひとつである画像圧縮技術について学ぶ。この技術について、仕組みや基本事項を理解したのち、関連する題材の中から課題を見出し、その解決を目指す。 | | | | |
| 授業の形態 | 演習 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | あり | | | | |
| 到達目標 | 1. テーマに関わる課題を見出し、その意義や妥当性を根拠に基づいて説明することができる。 2. 課題に対して解決方法を検討し、チームのメンバーと協力しながら主体的かつ継続的に学習を進めることができる。 3. 得られた成果をチームのメンバーと協力しながら整理し、わかりやすく発表することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (1) 生涯現役技術者として活躍するために、自主的・計画的・継続的に学習する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | A (学習力) 総合的実践的技術者として、自主的・継続的に学習する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | チーム分け、課題研究の目的や進め方について理解する。 | 2 | | | |
| 画像圧縮の仕組み | 画像圧縮技術について、仕組みや基本事項を理解しチームで協働してスライドにまとめる。 | 8 | | | |
| 課題設定 | チームで取り組む課題を設定し、その意義や妥当性を説明する。役割分担をし、活動計画を立てる。 | 6 | | | |
| 課題解決法の検討 | チームで課題解決方法を検討し、活動計画に従って調査・研究を遂行するとともに、他者の助言を適切に受け入れ、内容や方法に反映しながら主体的に取り組む。 | 10 | | | |
| 成果発表 | 得られた成果を整理し、わかりやすく発表する。 | 4 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 取組状況 (4 割)、課題 (3 割)、プレゼンテーション (3 割) の内容から評価する。 | | | | |
| 関連科目 | 数学特論 I | | | | |
| 教科書・副読本 | 参考書: 「はじめて学ぶベクトル空間」碓氷久 他 4 名 (大日本図書), その他: 授業内で適宜指示する | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------------|---|--|---|---|------|----|
| 課題研究 (Task-based Studies) | 矢吹康浩 (常勤) | | 4 | 1 | 集中 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | テーマに関わる課題を見出し、その意義や妥当性を根拠に基づいて説明することができる。 | | | | | |
| | 調査活動を通して発掘した問題の重要性を客観的に示し、その問題を解決するために必要な課題を設定することができる。 | 調査活動を通して問題を発掘し、その問題を解決するために必要な課題を設定することができる。 | 与えられた問題に対し、その問題を解決するために必要な課題を設定することができる。 | 課題を設定することができない。 | | |
| 2 | 課題に対して解決方法を検討し、チームのメンバーと協力しながら主体的かつ継続的に学習を進めることができる。 | | | | | |
| | 課題に対して解決方法を検討し、チームのメンバーと積極的に協力して役割を果たしながら、計画的かつ継続的に学習を進めることができる。 | 課題に対して解決方法を検討し、チームのメンバーと協力して学習を進めることができる。計画的・継続的な取り組みも概ねできている。 | 課題に対する解決方法の検討が一部にとどまり、チームの協力や継続的な学習への取り組みが不十分である。 | 課題に対する解決方法の検討やチームとの協力、学習の継続性がほとんど見られない。 | | |
| 3 | 得られた成果をチームのメンバーと協力しながら整理し、わかりやすく発表することができる。 | | | | | |
| | 得られた成果をチームのメンバーと協働して整理し、論理的かつ体系的にまとめ、聞き手にわかりやすく発表できる。資料や図表を効果的に用い、質問にも適切に回答できる。 | 得られた成果をチームのメンバーと整理し、聞き手にわかりやすく発表できる。資料や図表の活用も概ねできている。 | 得られた成果を整理する過程や協働が不十分で、発表の内容が分かりにくい部分がある。 | 得られた成果の整理やチームでの協力がほとんどなく、発表が聞き手に伝わらない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------------|---|------|----|------|----|
| 課題研究 (Task-based Studies) | 小林雄大 (常勤) | 4 | 1 | 集中 | 選択 |
| 授業の概要 | アクティブ・ラーニング科目。担当教員の専門性に関連した課題を学生との討論を通して設定し、それに沿って学習・調査・研究等をすすめ、成果の報告を行う。課題の設定、調査、研究等を通じて、学生が自主的・継続的に学習する能力を育むことを目的として展開する。本科目では、平安時代から現代に至るまで『源氏物語』がどのように読まれてきたのかについて考察し、最終的には、視覚資料の作成を通じて、古典と距離のある現代の人々に『源氏物語』の概要や価値などを伝えられるような方法の開発を目指す。 | | | | |
| 授業の形態 | 演習 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題に対し解決法を検討し、学習計画を立てることができる。 2. 計画に基づき自主的、継続的に学習、調査、フィールドワーク等を進めることができる。 3. グループ内で協力して作業を進めることができる。 4. 得られた成果をまとめ、わかりやすく発表することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (1) 生涯現役技術者として活躍するために、自主的・計画的・継続的に学習する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | A (学習力) 総合的実践的技術者として、自主的・継続的に学習する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 1. ガイダンス | ガイダンスを受け、日程調整、班分けを行う。授業の概要を理解する。 | 2 | | | |
| 2. 課題の決定 | 課題に関する討議を行い、課題を決定することができる。 | 2 | | | |
| 3. 課題解決手法の検討 | 解決に必要な知識を洗い出し学習計画を立てることができる。 | 2 | | | |
| 4. 学習 | 輪講講義等、学習計画に沿い学習を進めることができる。 | 6 | | | |
| 5. フィールドワーク、調査 | フィールドワーク、調査、実験などを実施することができる。 | 6 | | | |
| 6. 課題の検討 | 課題を解決する手段を検討することができる。 | 4 | | | |
| 7. プレゼンテーション準備 | プレゼンテーションの資料を作成することができる。 | 4 | | | |
| 8. 課題研究合同発表会 | 研究成果を発表することができる。 | 2 | | | |
| 9. 総括 | 総括を行い、課題研究でまとめたことについて、他系列を含めて共有することができる。 | 2 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 取り組み状況、プレゼンテーション、成果物などにより評価する。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | その他: 適宜、プリントを配布します。 | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------------|---|--|--------------------------------------|---------------------------------------|------|----|
| 課題研究 (Task-based Studies) | 小林雄大 (常勤) | | 4 | 1 | 集中 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 課題に対し解決法を検討し、学習計画を立てることができる。 | | | | | |
| | 解決法や計画を自主的にたてるとともに、状況に応じて改善していくことができる。 | 解決法や計画を自主的にたてるとともに、状況に応じて変更していくことができる。 | 解決法や計画を自主的にたてることができる。 | 解決法や計画を自主的にたてることができない。 | | |
| 2 | 計画に基づき自主的、継続的に学習、調査、フィールドワーク等を進めることができる。 | | | | | |
| | 状況を把握し改良を加えながら、学習、調査、フィールドワーク等を進め、当初の課題を推進して解決することができる。 | 自主的に学習、調査、フィールドワーク等を進め、当初の課題を解決することができる。 | 学習、調査、フィールドワーク等を進め、当初の課題を解決することができる。 | 学習、調査、フィールドワーク等を進め、当初の課題を解決することができない。 | | |
| 3 | グループ内で協力して作業を進めることができる。 | | | | | |
| | グループ内で作業を適切に分担するとともに、意見を交換しながら作業を進めることができる。 | グループ内で作業を適切に分担し、各自の役割を果たすことができる。 | グループ内で自分の役割を果たすことができる。 | グループ内で自分の役割を果たすことができない。 | | |
| 4 | 得られた成果をまとめ、わかりやすく発表することができる。 | | | | | |
| | 成果を適切にまとめ、分かりやすいプレゼンテーションを行なうことができる。 | 成果を適切にまとめ、プレゼンテーションを行なうことができる。 | 成果をプレゼンテーションで報告できる。 | 成果をプレゼンテーションで報告できない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------------|---|------|----|------|----|
| 課題研究 (Task-based Studies) | 坂本宗司 (常勤) | 4 | 1 | 集中 | 選択 |
| 授業の概要 | アクティブ・ラーニング科目。担当教員の専門性に関連した課題を学生との討論を通して設定し、それに沿って学習・調査・研究等をすすめ、成果の報告を行う。課題の設定、調査、研究等を通じて、学生が自主的・継続的に学習する能力を育むことを目的として展開する。本科目では、バドミントンにおけるラケットティングやショットの基礎技術を学び、ゲームの中から課題を見出し、ゲームを発展的に行うためにはどのような技術の向上が必要かを検討・考察しレポートを作成し解決を目指す。 | | | | |
| 授業の形態 | 演習 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | あり | | | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題に対し解決法を検討し、学習計画を立てることができる。 2. 計画に基づき、主体的に学習、調査、フィールドワークを継続して進めることができる。 3. グループ内で協力して作業を進めることができる。 4. 得られた成果をまとめ、わかりやすく発表することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (1) 生涯現役技術者として活躍するために、自主的・計画的・継続的に学習する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | A (学習力) 総合的実践的技術者として、自主的・継続的に学習する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 1. ガイダンス | ガイダンスを受け、日程調整、班分けを行い、授業の概要を理解することができる | 2 | | | |
| 2. 基礎学習 | バドミントンの基礎であるラケットティングや様々なショットの基礎技術を用いながらグループメンバーと共にゲームを主体的に行うことができる | 8 | | | |
| 3. 課題発見と課題決定 | ゲームを振り返り、グループ内で課題に関する討議を行い、課題を発見・決定することができる | 2 | | | |
| 4. 課題解決手法の検討 | 解決に必要な技術を洗い出し学習計画を立てることができる | 2 | | | |
| 5. 学習 | グループ内で学習計画に沿ってメンバーと協働して学習を進めることができる | 4 | | | |
| 6. 課題の再検討 | 学習を進める中で課題を解決する手法を再検討することができる | 4 | | | |
| 7. プレゼンテーション準備 | プレゼンテーションの資料を作成することができる | 4 | | | |
| 8. 課題研究合同発表会 | 研究成果を発表することができる | 2 | | | |
| 9. 総括 | 総括を行い、課題研究でまとめたことについて、他系列を含めて共有することができる | 2 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 取り組み状況 60%、プレゼンテーション 40%により評価する。 | | | | |
| 関連科目 | 保健体育 IV | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「現代高等保健体育 改訂版」 衛藤隆、友添秀則ほか (大修館書店), 副読本: 「ステップアップ高校スポーツ 2023」 高橋健夫ほか (大修館書店) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------------------|--|---|--|-----------------------------------|------|----|
| 課題研究 (Task-based Studies) | 坂本宗司 (常勤) | | 4 | 1 | 集中 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 課題に対し解決法を検討し、学習計画を立てることができる。 | | | | | |
| | 課題に対し解決法を検討し、計画を立てるとともに、状況に応じて適宜計画を改善していくことができる。 | 課題に対し解決法を検討し、学習計画を立てることができる。 | 課題に対し解決法や計画を検討することができる。 | 課題に対し解決法を検討できず、計画を立てることができない。 | | |
| 2 | 計画に基づき、主体的に学習、調査、フィールドワークを継続して進めることができる。 | | | | | |
| | 計画の進捗状況を把握するとともに、適宜改良を加えながら、主体的に学習、調査、フィールドワークを進め、課題に対し継続的に取り組むことができる。 | 計画に基づき、主体的に学習、調査、フィールドワークを進め、課題に対し継続的に取り組むことができる。 | 計画に基づき、他者の助けをかりながら学習、調査、フィールドワークを進め、課題に取り組むことができる。 | 計画に基づいた学習、調査、フィールドワークを進めることができない。 | | |
| 3 | グループ内で協力して作業を進めることができる。 | | | | | |
| | グループ内で協力し作業を適切に分担するとともに、メンバーと意見交換しながら作業を進め、自身の役割を果たすことができる。 | グループ内で協力し作業を分担し、自身の役割を果たすことができる。 | グループ内で協力し自身の役割を果たすことができるが全ての場面とはいえない。 | グループ内で協力せず、自身の役割を果たすことができない。 | | |
| 4 | 得られた成果をまとめ、わかりやすく発表することができる。 | | | | | |
| | 成果を適切にまとめ、分かりやすいプレゼンテーションを行なうことができる。 | 成果を適切にまとめ、プレゼンテーションを行なうことができる。 | 成果をプレゼンテーションで報告できる。 | 成果をプレゼンテーションで報告できない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|--|------|----|-----------|----|
| 英語 V (English V) | 永井誠 (常勤)・三ツ石直人 (非常勤) | 5 | 2 | 通年 2時間 | 必修 |
| 授業の概要 | ライティングを中心に英語の4技能を総合的に向上させる。文法項目に基づいた英作文演習、論説的な文章の段落構造、論理の流れを説明する表現を理解し習得する。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 様々な語彙・表現をライティングで使用できる。 2. 様々な段落構造や論理の流れを説明する表現を理解し、それらをライティングで使用できる。 3. 習得したライティング力によってプレゼンテーションの原稿が書ける。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス、Chapter 1「自己紹介」、2「謝罪」、3「報告」 | ①「学問分野を表す表現」「謝罪の気持ちを表明する表現」「進捗状況を表す表現」を理解したライティングができる。 ②パラグラフの構成・要素を理解できる。 | 14 | | | |
| Chapter 4「依頼」、5「遠慮・辞退」、6「提案」、7「推奨・自己アピール」 | ①「丁寧に依頼する表現」「提案を断る表現」「成果の見込みを提示する表現」「自分の強みを伝える表現」を理解したライティングができる。 ②日本語の発想法から英語の表現法への変換を理解したライティングができる。 | 16 | | | |
| Chapter 8「意見表明」、9「相談」、10「過去の出来事」、11「感謝」 | ①「意見の正当性を証明する表現」「問題や悩みを説明する表現」「無生物主語を用いて原因と結果を明記する表現」「多様な感謝表現」を理解したライティングができる。 ②主なつながり言葉・列挙の方法・提案の方法を理解したライティングができる。 | 16 | | | |
| Chapter 12「送付状」、13「論文の要旨」、14「謝辞」 | ①「送付状に明記する表現」「論文の主題を述べる表現」「感謝の気持ちを伝える表現」を理解したライティングができる。 ②様々な複合文構造を理解したライティングができる。 ③論文やプレゼンテーションに多用される表現を駆使したライティングができる。 | 14 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 定期試験+授業内テスト6割、取組状況(小テスト、指名・発表、課題提出等)4割から総合的に評価する。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書:「English Template Writing」八木橋宏勇(金星堂) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---------------------|---|--|--|---|-----------|----|
| 英語 V (English V) | 永井誠 (常勤)・三ツ石直人 (非常勤) | | 5 | 2 | 通年 2時間 | 必修 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 様々な語彙・表現をライティングで使用できる。 | | | | | |
| | 学習した構文・表現・語彙の全てをライティングで使用できる。 | 学習した構文・表現・語彙の8割程度をライティングで使用できる。 | 学習した構文・表現・語彙の6割程度をライティングで使用できる。 | 学習した構文・表現・語彙のうちライティングで使用できるものが6割未満。 | | |
| 2 | 様々な段落構造や論理の流れを説明する表現を理解し、それらをライティングで使用できる。 | | | | | |
| | 学習した段落構造や論理の流れを説明する表現の全てを理解し、論理的なライティングで使用できる。 | 学習した段落構造や論理の流れを説明する表現の8割程度を理解し、論理的なライティングで使用できる。 | 学習した段落構造や論理の流れを説明する表現の6割程度を理解し、論理的なライティングで使用できる。 | 学習した段落構造や論理の流れを説明する表現で使用できるものが6割未満。 | | |
| 3 | 習得したライティング力によってプレゼンテーションの原稿が書ける。 | | | | | |
| | 学習したパラグラフ構造の全てを理解し、論理的なライティングで使用し、プレゼンテーションの原稿が書ける。 | 学習したパラグラフ構造の8割程度を理解しプレゼンテーションの原稿原稿を書く際に使用することができる。 | 学習したパラグラフ構造の6割程度を理解しプレゼンテーションの原稿を書く際に使用できる。 | 学習したパラグラフ構造のうち理解しプレゼンテーションの原稿を書く際に使用できるものが6割未満。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|---|------|----|------------|----|
| 日本語表現法 II (Japanese Expressions II) | 小林俊輝 (非常勤) | 5 | 1 | 前期 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | この授業では、話す、聞く、書く、読むという言語活動に主体的に取り組むことを通して、コミュニケーション力と表現力を養う。授業内では、スピーチやディスカッションを中心に、文章の執筆等も行う。4 年次までに身につけた日本語表現能力をさらに高めることが、本授業の目的とするところである。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 場面や状況に応じて情報を伝え合うことができる。 2. 実社会に必要な日本語の基礎的な知識や技能を身につけることができる。 3. 日本語に対する認識を深め、言葉を通して他者や社会と関わることができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | 授業の概要・目的・方法などを理解する | 2 | | | |
| 話すこと・聞くこと | 課題のテーマに関してスピーチを行い、わかりやすく伝える力を身に付けるとともに、他の人の発表を聞くことで、聞き手の立場からより良い発表の仕方について考える。 | 8 | | | |
| 話すこと | 基本的な日本語表現および様々な敬語表現のルールや、手紙等通信文の書き方を学び、社会で求められる基本的なコミュニケーションスキルを身に着ける。 | 4 | | | |
| 読む・書く・話す・聞く・討論する | ビブリオバトルを行うことで、読む・書く・話す・聞く・討論することを総合的に学び身に付ける。 | 14 | | | |
| まとめ | 授業で取り上げた内容について総括する。 | 2 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 平常点 (作業課題の成績とその内容) … 70 % 項目ごとの「まとめ」(レポートや小テスト) … 30 % | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | その他: プリント等 | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|--|--------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|-----------|----|
| 日本語表現法 II (Japanese Expressions II) | 小林俊輝 (非常勤) | | 5 | 1 | 前期 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 場面や状況に応じて情報を伝え合うことができる。 | | | | | |
| | 場面や状況に応じて情報を的確かつ効果的に伝え合うことができる。 | 場面や状況に応じて情報を伝え合うことができる。 | 場面や状況に応じて情報を伝えることができる。 | 場面や状況に応じて情報を伝え合うことができない。 | | |
| 2 | 実社会に必要な日本語の基礎的な知識や技能を身につけることができる。 | | | | | |
| | 実社会に必要な日本語の基礎的な知識や技能を身につけ、活用することができる。 | 実社会に必要な日本語の基礎的な知識や技能を身につけることができる。 | 日本語の基礎的な知識や技能を身につけることができる。 | 実社会に必要な日本語の基礎的な知識や技能を身につけることができない。 | | |
| 3 | 日本語に対する認識を深め、言葉を通して他者や社会と関わるることができる。 | | | | | |
| | 日本語に対する認識を深め、言葉を通して他者や社会と関わり、自己の考えを広げたり深めたりすることができる。 | 日本語に対する認識を深め、言葉を通して他者や社会と関わるることができる。 | 日本語に対する認識を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとしている。 | 日本語に対する認識を深め、言葉を通して他者や社会と関わることができない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|--|------|----|-----------|----|
| 表象文化 II (Culture and Representation II) | 小林雄大 (常勤) | 5 | 1 | 後期 2時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 我々は、古典作品を「文字」で読むことが多い。しかし、その内容や場面を理解するためには、必ずしも「文字」によらなければならない、というわけではない。日本では、早くから「文字」でかかれた世界を「視覚化」することが試みられてきた。例えば、中世・近世では、絵巻、演劇などが、現代では、映画、アニメ、漫画などが挙げられる。本科目は、上記のような視覚資料を読み解き、古典作品が平安時代から現代に至るまで、どのように享受されてきたのかについて検討し、その考えを学生間で共有できるようになることを目的とする。それによって、古典作品に関する理解を深めつつ、現代との繋がりを知ることに加えて、コミュニケーション能力を向上させることも目指す。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 演劇、映画、アニメーションの表現方法を理解し、そこに「描かれていること」を読解することができる。 2. 演劇、映画、アニメーションに描かれている文化的背景を理解することができる。 3. 物語を描く文化的伝統に興味をもち、現代文化との繋がりを考察することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | 授業の概要・目的・方法などを理解する。 視覚資料に表現された物語の世界に触れてみる。 | 2 | | | |
| 『竹取物語』 | 『竹取物語』の内容を本文、映像資料に添って読解する。 古典の視覚化にあたり改編されている箇所とその理由について考察する。 人々が畏敬の対象をどのように表現しているのかを理解する。 | 8 | | | |
| 『源氏物語』 | 『源氏物語』の内容を本文、演劇に添って読解する。 物語がどのような形で後世に伝わっていくのかを考察する。 人々が目に見えない物の怪をどのように表現しているのかを理解する。 | 8 | | | |
| 『平家物語』 | 『平家物語』の内容を本文、アニメーションに添って読解する。 現代のアニメーションが古典作品をどのように再構築しているのかを考察する。 栄華を誇った平氏の滅びゆく様がどのように表現されているのかを理解する。 | 8 | | | |
| 物語の舞台 | 文学作品の中でモデルとなっている場所や人間、出来事について理解する。 物語(虚構)と現実との繋がりを考察する。 | 4 | | | |
| | | 計 30 | | | |
| 学業成績の評価方法 | コメントシートの提出とその内容・・・40% レポートや小テスト、口頭発表・・・50% 授業への取組状況・・・10% | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | その他: 適宜、プリントを配布します。 | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|---|--|--|--|-----------|----|
| 表象文化 II (Culture and Representation II) | 小林雄大 (常勤) | | 5 | 1 | 後期 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 演劇、映画、アニメーションの表現方法を理解し、そこに「描かれていること」を読解することができる。 | | | | | |
| | 演劇、映画、アニメーションの表現方法を理解し、そこに「描かれていること」について読解を深めることができる。 | 演劇、映画、アニメーションの表現方法を理解し、そこに「描かれていること」を読解することができる。 | 演劇、映画、アニメーションの表現方法を理解し、そこに「描かれていること」を読解しようとすることができる。 | 演劇、映画、アニメーションの表現方法を理解することができず、そこに「描かれていること」を読解することができない。 | | |
| 2 | 演劇、映画、アニメーションに描かれている文化的背景を理解することができる。 | | | | | |
| | 演劇、映画、アニメーションに描かれていることの文化的背景を深く理解することができる。 | 演劇、映画、アニメーションに描かれていることの文化的背景を理解することができる。 | 演劇、映画、アニメーションに描かれていることの文化的背景を理解しようすることができる。 | 演劇、映画、アニメーションに描かれていることの文化的背景を理解することができない。 | | |
| 3 | 物語を描く文化的伝統に興味をもち、現代文化との繋がりを考察することができる。 | | | | | |
| | 物語を描く文化的伝統に興味をもち、現代文化との繋がりについて考察を深めることができる。 | 物語を描く文化的伝統に興味をもち、現代文化との繋がりを考察することができる。 | 物語を描く文化的伝統に興味をもち、現代文化との繋がりを考察しようとするすることができる。 | 物語を描く文化的伝統に興味をもつことができず、現代文化との繋がりを考察することができない。 | | |

令和 8 年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|---|------|----|------------|----|
| 経営学 II (Business Administrations II) | 若林裕介 (非常勤) | 5 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 学生が、企業経営における知財 (知的財産) の重要性について理解し、企業の知財戦略 (主として特許戦略) について具体的事例や演習を通して考察する。本講義では、積極的に各種 AI・データベースを活用した演習やグループワークを行う。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 学生が、各種 AI や特許データベースを用いて、企業の保有する知財の情報を収集し、内容を理解することができる。 2. 学生が、当該企業における特許を活用した新たなビジネスを提案することができる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (3) 産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かで幅広い教養をもち、技術者として責任ある思考と行動ができる能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | C (人間性・社会性) 総合的実践的技術者として、産業界や地域社会、国際社会に貢献するために、豊かな教養をもち、技術者として社会との関わりを考える能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| ガイダンス | 企業における知財戦略 (特に特許戦略) の重要性を理解する。 | 2 | | | |
| 特許制度の概要 | 特許戦略について考察するために最低限必要な制度を理解する。 | 4 | | | |
| 特許データベース及び各種 AI システムの操作 | 特許データベースの使用法、及び収集した情報を処理する各種 AI の使用方法を理解する。 | 6 | | | |
| 企業の特許情報収集 | 大企業及び中小企業 (スタートアップ企業) を選択し、選択した企業の特許情報を収集・考察する。 | 4 | | | |
| 企業の特許戦略の事例研究 | 企業において、特許技術がどのように経営に寄与しているのかを理解する。講師の指定する企業の特許を分析し、さらに当該企業の担当者に対してヒアリング (質問) を行う。 | 10 | | | |
| 企業の特許戦略の分析 | グループ (4~5 人) で大企業及び中堅企業選を選択し、当該企業が取得している特許の情報を収集・考察する。グループごとに考察した結果をプレゼンテーションする。 | 16 | | | |
| スタートアップ事業の計画・プレゼンテーション | グループ (4~5 人) で既存特許を 1 つ選び、当該特許を活用したスタートアップ事業を計画する。グループごとに計画内容をプレゼンテーションする。 | 16 | | | |
| まとめ総括 | | 2 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 課題提出 (30 %)、レポートと発表 (70 %) で評価する。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 副読本: 「妄想と具現 未来事業を導くオープンイノベーション術 DUAL-CAST」出村 光世 (日経 BP 社), その他: 教科書は「2025 年度知的財産権制度入門テキスト」特許序編をダウンロード可とします。 https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2025_nyumon.html | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|---|--|--|----------------------------------|------------|----|
| 経営学 II (Business Administrations II) | 若林裕介 (非常勤) | | 5 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 学生が、各種 AI や特許データベースを用いて、企業の保有する知財の情報を収集し、内容を理解することができる。 | | | | | |
| | 学生が、企業経営における特許戦略の位置づけを理解した上で、企業の特許情報を収集・分析することができる。 | 学生が、企業経営における特許戦略の位置づけを理解し、分析に活用できる。 | 学生が、企業経営における特許戦略の位置づけについて基本的な事柄を理解できる。 | 学生が、企業経営における特許戦略の位置づけについて理解できない。 | | |
| 2 | 学生が、当該企業における特許を活用した新たなビジネスを提案することができる。 | | | | | |
| | 学生が、収集した特許情報に基づいて新たなビジネスを提案することができる。 | 学生が、企業の特許情報を収集・分析し初歩的なビジネスを提案することができる。 | 学生が、企業の特許情報を収集して技術分野ごとに分類することまでができる。 | 学生が、企業の特許情報を理解できず、分類もできていない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|---|------|----|------------|----|
| 数学特論 II (Special Topics in Mathematics II) | 荒木康太 (非常勤) | 5 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 本講義では、学生が確率および統計の基礎的な知識を身につけることを目的とする。ここで学ぶ確率・統計は、主に生産工学、計測工学、通信工学、医用工学などの専門科目や卒業研究において必要不可欠な基礎となるものである。また、確率と統計はデータに基づいて合理的に判断するための重要な手法であり、広くエンジニアとして備えておくべき基本的素養の一つであることを理解する。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 場合の数および確率を正しく求めることができる。 2. 与えられた資料（データ）を的確に把握し、適切な方法で整理・処理することができる。 3. 推定および検定を行い、統計的根拠に基づいて判断できる。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (4) 数学及び自らの専門とする分野の基礎的な知識と基本的な技術を得る能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | D (基礎力) 総合的実践的技術者として、数学・自然科学・自らの専門とする分野の基本的な技術と基礎的な理論に関する知識をもち、工学的諸問題にそれらを応用する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 確率の定義と性質 | 確率の定義を理解し、確率の基本性質や加法定理を用いて確率を計算できる。また、期待値を求め、その意味を説明できる。 | 6 | | | |
| いろいろな確率 | 条件付き確率および確率の乗法定理を理解し、事象の独立やベイズの定理を説明できる。また、それらを用いて発展的な確率問題を解くことができる。 | 6 | | | |
| 1次元のデータ | 平均・分散・標準偏差などの代表値を求めることができ、それらを用いてデータのばらつきや傾向を把握できる。 | 4 | | | |
| 2次元のデータ | 2次元データの相関を理解し、相関係数を計算できる。また、回帰直線および回帰係数を求め、データの関係を解析できる。 | 4 | | | |
| 確率変数と確率分布 | 二項分布やポアソン分布などの離散型確率分布、および正規分布などの連続型確率分布の基礎的な性質を理解し、平均・分散などを計算できる。 | 10 | | | |
| 統計量と標本分布 | 確率変数の関数としての統計量を計算・理解し、大数の法則や中心極限定理の意味を説明できる。また、カイ2乗分布、t分布、F分布を用いた基礎的な計算ができる。 | 10 | | | |
| 母数の推定 | 点推定および区間推定の基本的な考え方を理解し、母平均の区間推定（正規母集団および一般母集団の場合）、母分散の区間推定（正規母集団の場合）、母比率の区間推定（二項母集団で標本サイズが大きい場合）を適切に行うことができる。 | 8 | | | |
| 仮説の検定 | 仮説検定の手順や考え方を理解し、母平均の検定（母分散既知・未知の場合）、母平均の差の検定、母分散の検定、等分散の検定、母比率の検定を適切に行うことができる。 | 12 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | 確認テスト（8割）および課題等の取り組み状況（2割）により評価する | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「新確率統計 改訂版」 高遠節夫他 (大日本図書) | | | | |

令和8年度ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|---|---|--|--|--|------------|----|
| 数学特論 II (Special Topics in Mathematics II) | 荒木康太 (非常勤) | | 5 | 2 | 通年 2 時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 場合の数および確率を正しく求めることができる。 | | | | | |
| | ベイズの定理とその意味を理解しており、応用問題を解くことができる。 | 条件付き確率を理解しており、応用問題を解くことができる。 | 場合の数や確率の簡単な問題を解くことができる。期待値の基本も理解している。 | 場合の数や確率の計算が正しくできず、確率に関する基本的な用語や性質を理解していない。 | | |
| 2 | 与えられた資料 (データ) を的確に把握し、適切な方法で整理・処理することができる。 | | | | | |
| | 1次元・2次元データの特徴を十分に理解し、複雑なデータや応用的な問題でも自立して整理・処理でき、代表値や相関を用いてデータの関係を説明できる。 | 与えられた条件下の1次元・2次元データを整理・処理でき、代表値や相関を計算して基本的な解釈ができる。 | 基本的な1次元データや簡単な2次元データの整理・処理、代表値・相関の計算ができる。 | データを正しく把握できず、整理・処理や代表値・相関の計算ができない。 | | |
| 3 | 推定および検定を行い、統計的根拠に基づいて判断できる。 | | | | | |
| | 推定や検定の手順や前提条件を十分に理解しており、複雑な問題でも自立して計算・検定を行い、統計的根拠に基づいて妥当な結論を導くことができる。 | 与えられた条件の下で推定や検定を正しく実行でき、結果を統計的根拠に基づいて解釈できる。 | 基本的な推定や検定 (例: 母平均の検定や簡単な区間推定) を手順に沿って実行でき、結果の意味を大まかに説明できる。 | 推定や検定の手順を理解しておらず、計算や判断が正しくできない。統計的根拠に基づいた結論を導くことができない。 | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) シラバス

| 科目名 | 担当教員 | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|--|--|------|----|-----------|----|
| 中国語 (Chinese) | 稲葉亜貴子 (非常勤) | 5 | 2 | 通年 2時間 | 選択 |
| 授業の概要 | 中国語初学者対象の授業。実践で通用する中国語力の基礎をつくる。また、中国語学習を通じて中華文化や現代中国社会を理解する。 | | | | |
| 授業の形態 | 講義 | | | | |
| アクティブラーニングの有無 | なし | | | | |
| 到達目標 | 1. 中国語コミュニケーションの基礎となる正しい発音を習得する。 2. 中国語で自己紹介 (専門分野含む) ができる。 3. 「話す」「聴く」「書く」基礎的なスキルを身に着ける。 | | | | |
| 実務経験と授業内容との関連 | なし | | | | |
| ディプロマポリシーとの関係 | (2) 協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に思考し、表現する能力を有する | | | | |
| 学校教育目標との関係 | B (コミュニケーション力) 総合的実践的技術者として、協働してものづくりに取り組んだり国際社会で活躍したりするために、論理的に考え、適切に表現する能力を育成する。 | | | | |
| 講義の内容 | | | | | |
| 項目 | 目標 | 時間 | | | |
| 1. 発音① 2. 発音② 3. 発音③ 4. 発音④ 5. 発音⑤ 小テスト 6. 挨拶 7. 自己紹介 前期中間まとめ試験 | 中国語の発音の最も重要な基礎である声調を身に着ける。 単母音、複合母音の正しい発音ができる。 子音 (前半) の正しい発音ができる。 子音 (後半) の正しい発音ができる。 発音の総復習。単語の学習。 日常の挨拶を言えるようにする。 自己紹介の練習。 | 14 | | | |
| 8. 疑問文 9. 所有を表す 10. 形容詞 小テスト 11. 数量を表す 12. 名詞の文 13. 完了形と比較① 14. 完了形と比較② 前期まとめ試験 15. 前置詞① | 動詞の疑問文を理解し、会話ができるようにする。 自分や他の人の持ち物について説明できる。 様々な状態を形容詞を使って表現できる。 物の数え方について学ぶ。 中国語特有の名詞文を学び、会話で使えるようにする。 動詞の完了形を理解し、会話で使えるようにする。 比較文を理解し、会話で使えるようにする。 前置詞の種類と用法を理解し、会話で使えるようにする。 | 16 | | | |
| 16. 否定文 17. 助動詞① 18 助動詞② 小テスト 19. 場所を表す 20. 時間表現 21. 過去の表現① 22. 過去の表現② 後期中間まとめ試験 | 動詞や形容詞の否定文を学ぶ。 願望を表す助動詞「想」の用法を学び、会話で使えるようにする。 助動詞「可以」の用法を学び、会話で使えるようにする。 様々な場所について説明することができる。 時間の長さ、期間に関する表し方を学ぶ。 動詞の完了形を理解し、更にスムーズに使うことができるようにする。 動詞の完了形を理解し、時制を間違わずに話すことができるようにする。 | 14 | | | |
| 23. 年月の表し方 24. 結果補語① 25. 結果補語② 小テスト 26. 助動詞③ 27. 前置詞② 28. 助動詞④ 29. 曜日とその他の時間 後期まとめ試験 30. 助動詞⑤ | カレンダーを読めるようになり、スケジュールを説明することができる。 動詞の複雑な組み合わせを理解する。 動詞の複雑な組み合わせを理解して、会話で使えるようにする。 能力を表す助動詞「能」の用法を学び、会話で使えるようにする。 場所を表す前置詞「在」の用法を理解し、会話で使えるようにする。 技術の習得を表す助動詞「会」の用法を学び、会話で使えるようにする。 カレンダーや時計、その他時間に関する語彙を学び、会話で使えるようにする。 助動詞の使い分けによって、細かいニュアンスを表現する。 | 16 | | | |
| | | 計 60 | | | |
| 学業成績の評価方法 | まとめの試験 70 %、平常の小テスト 30 %。 ※まとめの試験は前期・後期それぞれ2回行なう。前期と後期にそれぞれ2回 の小テストを行う。 ※前期と後期の成績を平均して最終の成績にする (再試験などを実施し最終成績に反映することがある)。 | | | | |
| 関連科目 | | | | | |
| 教科書・副読本 | 教科書: 「閲読プラス たのしくできる We can! 中国語 初級」 徐送迎 (朝日出版社) | | | | |

令和8年度 ものづくり工学科 一般科目 (荒川キャンパス) 到達目標とルーブリック

| 科目名 | 担当教員 | | 学年 | 単位 | 開講時数 | 種別 |
|------------------|--|--|--|--------------------------------|-----------|----|
| 中国語 (Chinese) | 稲葉亜貴子 (非常勤) | | 5 | 2 | 通年 2時間 | 選択 |
| 評価 (ルーブリック) | | | | | | |
| 到達目標 | 理想的な到達レベルの目安 (優) | 標準的な到達レベルの目安 (良) | ぎりぎりの到達レベルの目安 (可) | 未到達レベルの目安 (不可) | | |
| 1 | 中国語コミュニケーションの基礎となる正しい発音を習得する。 | | | | | |
| | 4つの声調を正確に聞き分けることができる。 | 4つの声調を概ね聞き分けることができる。 | 4つの声調を半分程度聞き分けることができる。 | 4つの声調をほとんど聞き分けることできない。 | | |
| 2 | 中国語で自己紹介 (専門分野含む) ができる。 | | | | | |
| | 5年生中国語レベルを対応する「挨拶表現」と「日常表現」を正確に使うことができる。 | 5年生中国語レベルを対応する「挨拶表現」と「日常表現」を概ね正確に使うことができる。 | 5年生中国語レベルを対応する「挨拶表現」と「日常表現」を半分程度正確に使うことができる。 | 「挨拶表現」と「日常表現」をほとんど正確に使うことできない。 | | |
| 3 | 「話す」「聴く」「書く」基礎的なスキルを身に着ける。 | | | | | |
| | 単語 (繁体字を含める) を正確に聞き・話し・書くことができる。 | 単語 (簡体字のみ) を正確に聞き・話し・書くことができる。 | 簡体字の単語を半分程度正確に聞き・話し・書くことができる。 | 簡体字の単語を聞き・話し・書くことがほとんどできない。 | | |